



ビデオウォール・プロセッサ

CORIO[®]master C3-540

CORIO[®]master mini C3-510

CORIO[®]master micro C3-503

取扱説明書 v2.20



目次

■安全上の注意.....	4
■ CORIOmaster™ の概要.....	4
■ CORIOgrapher™ の概要.....	4
■ CORIOmaster™ のセットアップ.....	5
クイックスタート.....	5
■ CORIOmaster™ シリーズの構成.....	6
CORIOmaster™ の構成.....	6
CORIOmaster mini™ の構成.....	7
CORIOmaster micro™ の構成.....	7
CORIOmaster micro™ のフロントパネルのボタン.....	7
モジュールについて.....	8
ストリーミングメディア&4K再生モジュール.....	8
ストリーミングメディア&4K再生モジュール クイックガイド.....	9
Encoder-100 について.....	10
Encoder-100 クイックガイド.....	11
Encoder-100 の設定の詳細.....	12
Encoder-100 のファクトリーリセット.....	14
推奨のハードウェア.....	14
■ビデオウォールの構築.....	14
ビデオウォールのプランニング.....	14
ビデオウォールの設置.....	14
■ CORIOgrapher™ でビデオウォールを設定する.....	15
CORIOgrapher™ について.....	15
CORIOgrapher™ メニュー.....	15
CORIOgrapher™ を使い始める.....	15
入出力ポートの名前.....	16
ビデオウォールを作成する.....	16
ビデオウォールのテスト.....	17
■本体の設定.....	18
CORIOmaster™ に名前を付ける.....	18
ファクトリーリセット.....	18
単位を選択.....	18
設定のバックアップと復元.....	18
■ CORIOmaster micro™ の設定.....	19
フロントパネルのボタンに機能を設定する.....	19
■ユーザーの設定.....	19
ユーザーの作成と編集.....	19
パスワードの変更.....	20
■ネットワーク設定.....	20
CORIOmaster™ のネットワーク設定.....	20
ストリーミングメディア&4K再生モジュールのネットワーク設定.....	20
■プレイリストの設定.....	21
プレイリスト名の変更とモジュール間の移動.....	21
プレイリストの削除.....	21
エンコーダとストリームの設定.....	21

■ CORIOgrapher™ の操作	21
プリセット.....	21
プリセットの作成と編集	21
プリセットの呼出 (実行)	23
ウィンドウの入力ソースを切り替える	23
オーディオを再生する	24
オーディオ出力のミュート.....	24
■メディアとストリーム	25
メディアとストリームの再生.....	25
■プレイリストの作成と管理	28
■内蔵ストレージの使用	30
プレイリストまたは再生キューに最適な解像度を選択	31
■ CORIOmaster micro™ のボタンについて	31
モード切替.....	31
CORIOmaster micro™ のロック	31
モジュールの交換	32
■トラブルシューティング	32
CORIOmaster™ のファームウェア更新について	32
ネットワークで接続している CORIOmaster™ が検出されない	33
ソース画像の表示が不安定なとき	33
ストリーミングメディア & 4K 再生モジュールがオーバーヒートする	34
オーディオが聞こえないとき	34
ストリーミングメディア & 4K 再生モジュールのファームウェアを更新できないとき	35
CORIOgrapher™ から Encoder-100 が接続できないとき	35
トラブルシューティングのチェックリスト	35
CORIOmaster™ のログインパスワードは？	36
出力モジュールで HDMI エクステンダーに電源を供給できますか？	36
ストリーミングメディア & 4K 再生モジュールの内蔵ストレージのメモリー容量は？	36
ストリーミングメディア & 4K 再生モジュールの MAC アドレスを調べるには？	36
再生キューに追加できるフォーマットは？	36
再生キューを保存することはできますか？	36
■ C3-540/C3-510/C3-503 仕様	37

■ 梱包内容

本機を使用する前に次のものが梱包箱に入っていることを確認してください。万が一足りないものがありましたら、購入された販売店までご連絡ください。

- | | | |
|--------------------------------|-----------------------------|------------------------------------|
| ・ 本体 × 1 | ・ USB ケーブル (A-B, 1.8m) × 1 | ・ D-Sub9 ピンケーブル (RS-232, 1.8m) × 1 |
| ・ DVI-U(オス)-BNC(メス)変換アダプター × 1 | ・ DVI-VGA 変換アダプター × 1 | ・ DVI(オス)-HDMI(メス)変換アダプター × 1 |
| ・ USB メモリー × 1 | ・ ラックマウント金具一式 (※ C3-510 のみ) | ・ 電源ケーブル × 1 |

安全上の注意

この度は tvONE 製品をお買いあげいただき、ありがとうございます。機器のセッティングを行う前に、この取扱説明書を十分にお読みください。この説明書には取り扱い上の注意や、購入された製品を最適にお使いいただくための手順が記載されています。長くご愛用いただくため、製品のパッケージと取扱説明書を保存してください。

●注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。



警告 この表示内容を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

- 必ず付属の電源アダプター、電源ケーブルを使用してください。これ以外の物を使用すると火災の原因となり大変危険です。また、付属の電源アダプター、電源ケーブルを他の製品で使用しないでください。
- AC100V、50Hz/60Hz の電源で使用してください。異なる電源で使用すると火災や感電の原因となります。
- 分解や改造は行わないでください。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となり危険です。
- 雷が鳴り出したら、金属部分や電源プラグには触れないでください。感電する恐れがあります。
- 煙が出る、異臭がする、水や異物が入った、本体や電源ケーブル・プラグが破損した等の異常があるときは、ただちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。



注意 この表示内容を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

- 万一、落としたり破損が生じた場合は、そのまま使用せずに修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災の原因となることがあります。
- 以下のような場所には設置しないでください。
直射日光の当たる場所 / 極度の低温または高温の場所 / 湿気の多い場所 / ほこりの多い場所 / 振動の多い場所 / 風通しの悪い場所
- 配線は電源を切ってから行ってください。電源を入れたまま配線すると、感電する恐れがあります。また、誤配線によるショート等は火災の原因となります。
- ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- 廃棄は専門業者に依頼してください。燃やすと化学物質などで健康を損ねたり火災などの原因となります。

■ CORIOmaster™ の概要

この度は、CORIOmaster™、CORIOmaster mini™ または CORIOmaster micro™ をお買い上げいただきありがとうございます。CORIOmaster™ は幅広いビデオソースとディスプレイに接続し、使いやすいユーザーインターフェースを持つ CORIOgrapher™ ソフトウェアと連携してダイナミックなビデオウォールを構築できます。

- 4K 解像度をサポートし、モニター、プロジェクターおよび LED ディスプレイを含む最大 4 ヶ所のビデオスクリーンを管理できます。
- DVI、SDI、HDBaseT、HDMI およびストリーミングメディアを含む幅広い入力ソースに対応します。
- CORIOmaster micro™ は、オーディオをサポートします。
- 異なったサイズや解像度のディスプレイを組合わせて使用することができます。
- ディスプレイのベゼルを補正できます。
- プロジェクターのエッジレンディングをサポートします。
- 映像信号をアップ・ダウン・クロス変換できます。
- IP ネットワーク接続またはシリアル接続でビデオウォールをコントロールできます。
- アナログ PC 入力の水平位置の微調整ができます。
- AMX またはクレストロンのコマンドモジュールが利用可能です。
- CORIOmaster™ は 4U ラックマウントサイズです。
- CORIOmaster mini™ は 1U ラックマウントサイズです。
- CORIOmaster micro™ は 1U ハーフサイズで、2 台を 1U ラックマウントできます。

■ CORIOgrapher™ の概要

CORIOgrapher™ V2.5 には、ビデオウォールの設定と管理に役立つ機能が搭載されています。

- シンプルでパワフルなユーザーインターフェースです。
- ウインドウの設定をプリセットとして保存し、プリセット間をさまざまなトランジション効果で切り替えることができます。
- 出力を 1° 単位で回転させることが可能です。
- ストリーミングメディアを管理できます。
- 入力ソースの解像度を自動的に検出し、出力解像度を任意に選択しすることができます。
- 「immediate」モードで設定の変更を即座に確認することができます。
- 作業をやり直す Undo や Redo 機能があります。
- ピクセル単位の精度でディスプレイやウインドウを配置することができます。

CORIOmaster™ のセットアップ

このセクションでは CORIOgrapher™ ソフトウェアを使用してビデオウォールを設定する方法を解説します。

クイックスタート

このクイックスタートガイドでは、CORIOgrapher™ ソフトウェアを使用してビデオウォールを設定する手順の概要を説明します。

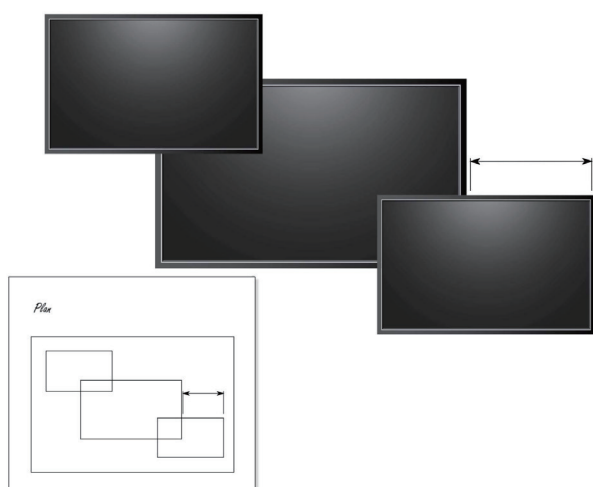
1、はじめに、ディスプレイをどのように配置してビデオウォールを構築するかの計画を立てます。

14 ページの「ビデオウォールのプランニング」を参照してください。

✓ ディスプレイ間の映像同期のズレをなくするために、すべてのディスプレイを同じフレームレートで使用する必要があります。

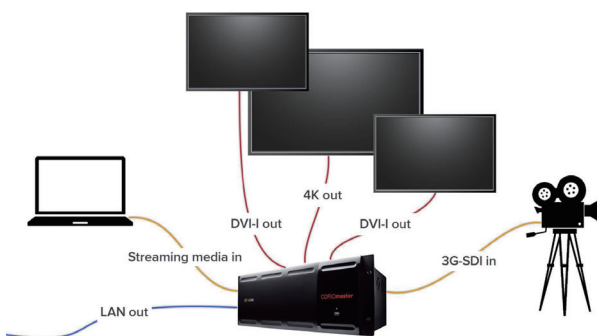
2、ハードウェアのセッティング

a. ディスプレイを配置します。

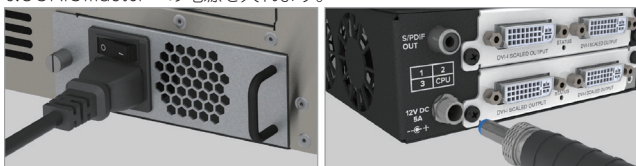


b. ソース機器を入力ポートに、ディスプレイを出力ポートにそれぞれ接続し、LAN ポートに PC を接続します。

CORIOmaster micro™ の場合は、デジタルオーディオ (S/PDIF) 出力を使用できます。



c. CORIOmaster™ の電源を入れます。



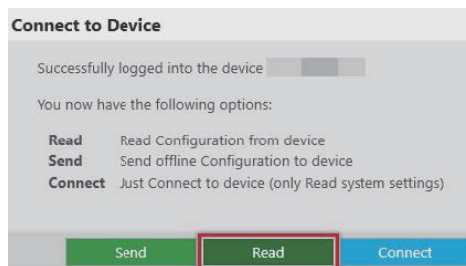
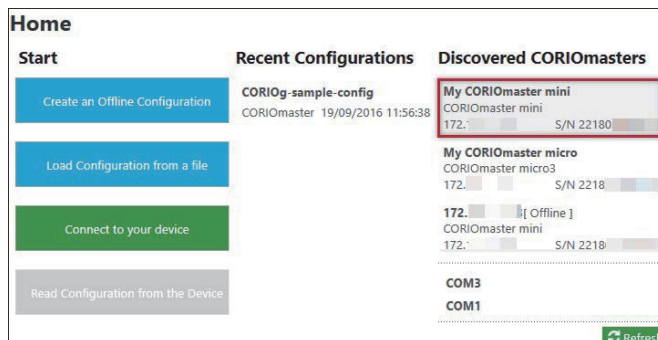
ハードウェアのインストールの詳細については 14 ページの「ビデオウォールの設置」を参照してください。

3. PC に CORIOdiscover™ と CORIOgrapher™ ソフトウェアをインストールします。

CORIOdiscover™ と CORIOgrapher™ ソフトウェアが入った USB メモリーが付属しています。

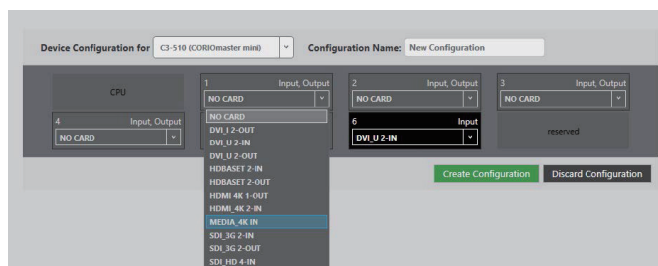
4. CORIOgrapher™ ソフトウェアを起動し CORIOmaster™ にログインします。ユーザー名とパスワードを入力しログインすると「Connect to Device」ウィンドウが表示されますので、Read を選択します。

デフォルトのユーザー名は admin で、パスワードは adminpw です。



CORIOmaster™ が見つからない場合は、33 ページのトラブルシューティングをお読みください。

また、もし CORIOmaster™ を接続しない場合でも、オフラインで設定を作成できます。



⚠ ストリーミングメディア & 4K 再生モジュールのプレイヤーは、オフライン作業時には使用できません。

詳細は、15 ページの「CORIOgrapher™ でビデオウォールを設定する」の章をお読みください。

5. 入力ポートや出力ポートに名前を付けることを推奨します。

⚙ を選択します。各ポートに接続されている機器を表す名前を付けます。

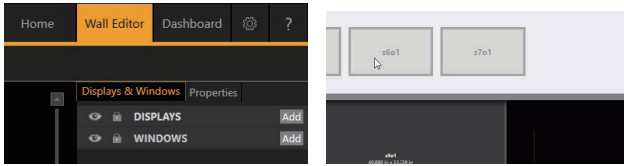
Slot	Name	Status
Slot4.In1	Camera1	INVALID
Slot4.In2	Camera2	INVALID
Slot5.In1	PlayQueue1	OK
Slot5.In2	PlayQueue2	OK

詳細は、16 ページの「入出力ポートの名前」を参照してください。

6. 「Wall Editor」を選択し、ディスプレイを追加します。

追加したディスプレイをビデオウォールの計画に合わせて配置します。

「Wall Editor」画面右側にある Displays&Windows タグの DISPLAYS の右にある Add ボタンを押し、表示されたディスプレイをワークスペースにドラッグします。

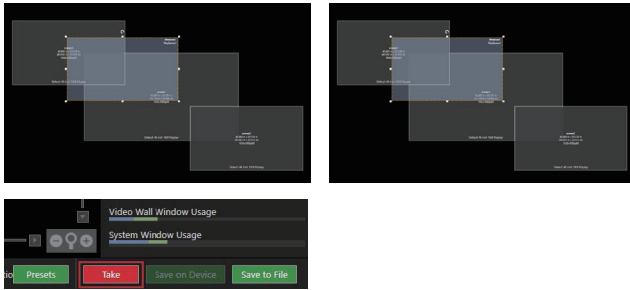


この段階では、大まかな配置を作成します。

詳細は、16 ページの「ビデオウォールを作成する」を参照してください。

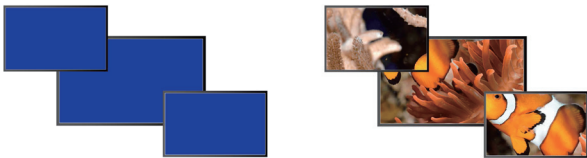
7. ウィンドウを追加してビデオウォール全体をカバーするようにスケールアップします。

同様に Displays&Windows タグの WINDOWS の右にある Add ボタンを押し、表示されたソースをワークスペースにドラッグします。そしてビデオウォール全体をカバーするようにウィンドウを拡大します。ウィンドウの角をドラッグするとウォールエディタ画面上で拡大します。Take ボタンを押すことで出力に反映します。



8. ビデオウォールが画像を正しく表示するかどうか確認します。

ソース映像が再生されているか、出力ポートが正しい順番で接続されているかを確認します。



✗ソース映像が正しく入力されていないため、ブルースクリーンになっている。

考えられる原因：

- ・ソース機器が正しく接続されていない。
- ・入力ポートの選択が正しくない。
- ・ソース映像が再生されていない。
- ・ソース映像の解像度がサポートされていない。
- ・ディスプレイが HDCP に対応していない。
- ・ソース機器が必要な数の HDCP キーを持っていない。
- ・ケーブルの品質が悪い。

✓ソース機器が正しく接続され、映像が再生されている。

✗ただし、画像が間違った場所に表示されている。

考えられる原因：

- ・CORIOgrapher™ でディスプレイを正しく配置していない。
- ・出力ポートの選択が正しくない。
- ・ディスプレイが正しい順序に接続されていない。

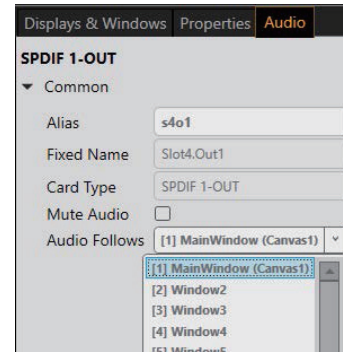


✓ソース機器とディスプレイが正しく接続され配置されている。

9. ステップ7を繰り返して、すべてのソース入力のウィンドウを追加し、正しく表示されるように確認してください。

10. CORIOmaster micro™ の場合は、各ウィンドウの音声も確認します。

「Wall Editor」画面右側にある Audio タグを選択して、Audio Follows 項目のプルダウンから順番に各ウィンドウを選択します。



各ウィンドウの映像と音声が入っていることを確認します。

音声が聞こえない場合は、34 ページのトラブルシューティングの「オーディオが聞こえないとき」をお読みください。

詳細は、17 ページの「ビデオウォールのテスト」を参照してください。

32 ページのトラブルシューティングもお読みください。

次のステップ

以上で大まかにビデオウォールが設定されました。更にプリセットやトランジション効果を追加して、ビデオウォールをより正確で高品質に設定を行なうことができます。

CORIOmaster™ にストリーミングメディア& 4K 再生モジュールが挿入されている場合は、それも設定する必要があります。

詳細は、8 ページの「ストリーミングメディア& 4K 再生モジュール」をお読みください。

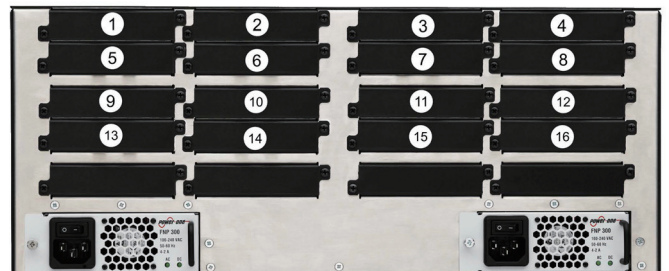
■ CORIOmaster™ シリーズの構成

ハードウェアの特長と機能について説明します。

CORIOmaster™ の構成

CORIOmaster™ は幅広いソースとディスプレイに接続し、わかりやすいユーザーインターフェースの CORIOgrapher™ ソフトウェアと連携してダイナミックなビデオウォールを構築することができます。

スロット

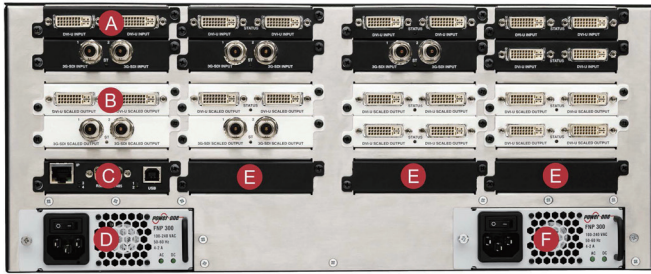


CORIOmaster™ の4U ラックサイズの筐体には、入出力モジュールを挿入できる16の slots があります。最大で14の入力または出力モジュールを使用することができます。そして最大5つのストリーミングメディア&4K再生モジュールを使用することができます。

slot 1と2は入力モジュール専用の slot で、slot 15と16は出力モジュール専用の slot です。また、ストリーミングメディア&4K再生モジュールは slot 4、8、5、1、3の順序でインストールしてください。

入力モジュールと出力モジュールはグループ化することをお勧めします。slot 1から順番に上部に入力モジュールを追加し、slot 16から順番に下部に出力モジュールを追加します。

CORIOmaster™ の背面パネル



A: 入力モジュール (パネル色は黒)	ソース機器を接続します。
B: 出力モジュール (パネル色は白)	ディスプレイを接続します。
C: CPU モジュール	イーサネット で制御用 PC と接続します。RS-232 でシリアルコントローラと接続します。
D: オプションのセカンド電源ユニット (リダンダント用途)	AC コンセントに接続します。
E: 密封 slot	使用不可
F: 電源ユニット	AC コンセントに接続します。

CORIOmaster mini™ の構成

このマニュアルでは、特に明記しない限り、CORIOmaster mini™ と CORIOmaster micro™ も CORIOmaster™ と表記されています。

slot



CORIOmaster mini™ の1U ラックサイズの筐体には、入出力モジュールを挿入できる6つの slots があります。slot 6には入力モジュールが固定で付属されています。ですから、最大で5つの入力または出力モジュールを追加することができます。そして最大2つのストリーミングメディア&4K再生モジュールを使用することができます。

また、ストリーミングメディア&4K再生モジュールは slot 1または slot 2にインストールしてください。

! slot 4は出力モジュール専用でお使いください。パフォーマンス低下のリスクがあります。

CORIOmaster mini™ の背面パネル



A: 電源ユニット	AC コンセントに接続します。
B: CPU モジュール	イーサネット で制御用 PC と接続します。RS-232 でシリアルコントローラと接続します。
C: 出力モジュール (パネル色は白)	ディスプレイを接続します。
D: 入力モジュール (パネル色は黒)	ソース機器を接続します。

注: slot 6は固定の入力 slot で、DVI-I 入力モジュールがインストールされています。

CORIOmaster micro™ の構成

このマニュアルでは、特に明記しない限り CORIOmaster mini™ と CORIOmaster micro™ も CORIOmaster™ と表記されています。

slot



CORIOmaster micro™ の構成1U ハーフサイズの筐体には、入出力モジュールを挿入できる3つの slots があります。最大で2つの入力または出力モジュールを使用することができます。

CORIOmaster micro™ の背面パネル



A: S/PDIF デジタル オーディオ出力	オーディオ装置に接続します。
B: DC 電源入力	付属の AC アダプタを使用してコンセントに接続します。
C: 入力モジュール (パネル色は黒)	ソース機器を接続します。
D: 出力モジュール (パネル色は白)	ディスプレイを接続します。
E: CPU モジュール	イーサネット で制御用 PC と接続します。RS-232 でシリアルコントローラと接続します。

CORIOmaster micro™ 用取付アクセサリ

オプションのラックマウント金具があります。販売店にお問い合わせください。

RM-503-1RU-DUAL は、CORIOmaster micro™ を1台または2台並べてラックマウントできるラックマウント金具です。

CORIOmaster micro™ のフロントパネルのボタン

フロントパネルのボタンを使用して、保存したプリセットを呼び出したり、入力ソースを切り替えたり、フロントパネルのボタン操作のロックができます。

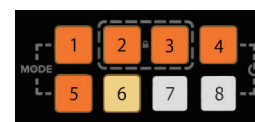
デフォルトでは、ボタンはプリセット選択、入力ソース選択またはウィンドウ選択の3つのモードに対応しています。

これらのモードの切り替えは、ボタン1と5を同時に長押しします。

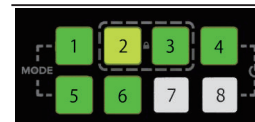
CORIOmaster micro™ のボタンの詳細に関しては、19ページの「フロントパネルのボタンに機能を設定する」を参照してください。

このボタンは、用途に応じて違う色で点灯します。

ボタンの色



薄暗いオレンジ	プリセット選択モード
明るいオレンジ	より明るく点灯しているプリセット6がアクティブ
無点灯のボタン	無点灯のプリセット7と8にはプリセット情報がない



薄暗いグリーン	ソース選択モード
明るいグリーン	より明るく点灯しているボタン2のソースがアクティブ ※アクティブソースからのオーディオが出力
無点灯のボタン	無点灯のプリセット7と8に対応するソースがない



ボタン2と3が赤く点灯	フロントパネルのボタンがロックされている
-------------	----------------------

アクティブウィンドウの選択

アクティブウィンドウを選択すると、そのウィンドウの入力ソースを切り替えることができます。

・アクティブウィンドウを選択するには、ソース選択モードにしてそのウィンドウに対応するボタンを点滅が始まるまで長押しします。

出力するオーディオの選択

アクティブウィンドウのソースの音声が出力されます。

・アクティブウィンドウを選択するには、ソース選択モードにしてそのウィンドウに対応するボタンを点滅が始まるまで長押しします。

プリセットまたは入力ソースの選択

・ボタン 1 と 5 を押してそれぞれのモードを選択して、任意の番号のボタンを押します。

モードの切り替え

・モードの切り替えは、ボタン 1 と 5 を同時に長押しします。

ボタンの色が変わります。

モジュールについて

CORIOmaster™ は現在、以下の 6 種類の入力モジュールと 4 種類の出力モジュールをサポートしています。モジュールを選択することで、ほとんどすべてのソース機器やディスプレイと接続することができます。

入力モジュール

モジュール	製品	接続
4K30/60Hz HDMI 入力モジュール	CM-HDMI-4K-2IN	2xHDMI 最大 4096x2160@30Hz または 1xHDMI 最大 4096x2160@60Hz HDCP 準拠
ユニバーサル DVI 入力モジュール	CM-DVIU-2IN	2 x DVI-U (HDCP 準拠)
3G-SDI 入力モジュール	CM-3GSDI-2IN	2 x 3G/HD/SD-SDI BNC コネクタ
HD/SD-SDI 入力モジュール	CM-HDSDI-4IN	4 x HD/SD-SDI BNC コネクタ
HDBaseT 入力モジュール	CM-HDBT-2IN-1ETH	2 x HDBaseT RJ45 コネクタ 最大 2 x 4K @30Hz または 1 x 4K @60 Hz
ストリーミングメディア & 4K 再生モジュール	CM-AVIP-IN-1USB-1ETH	1 x USB 2.0/3.0 1 x Ethernet

出力モジュール

モジュール	製品	接続
3G-SDI スケーリング出力モジュール	CM-3GSDI-SC-2OUT	2 x 3G/HD/SD-SDI BNC コネクタ スケーリング出力
4K30Hz HDMI スケーリング出力モジュール	CM-HDMI-4K-SC-1OUT	1 x HDMI 最大 4K @30 Hz (UHD)
DVI-I スケーリング出力モジュール	CM-DVI-I-SC-2OUT	2 x DVI-I (HDCP 準拠)
HDBaseT スケーリング出力モジュール	CM-HDBT-SC-2OUT-1ETH	2 x HDBaseT RJ45 コネクタ

電源モジュール

モジュール	製品	接続
CORIOmaster™ 4U ラックサイズ筐体用リダナント電源ユニット	CM-4RPS	1 x IEC 規格電源ケーブル

変換アダプタ

変換アダプタを使用すると、次に示すフォーマットのビデオ信号を DVI-U 入力または DVI-I 出力に接続することができます。

アダプタ	製品	オスコネクタ	メスコネクタ
HDMI 変換アダプタ	CMD1941	DVI	HDMI
アナログ PC 変換アダプタ	ZDH2040	DVI	VGA
アナログ RGBHV 変換アダプタ	ZDB-2038	DVI	アナログ RGBHV 5 x BNC
YPbPr/YUV 変換アダプタ	ZDR2042	DVI	YPbPr/YUV 3 x RCA
YPbPr/YUV 変換アダプタケーブル	ZDB2044	DVI	YPbPr/YUV 3 x BNC
YC (S ビデオ) 変換アダプタ	ZDB2048	DVI-U のみ	2 x BNC
YC (S ビデオ) 変換アダプタ	ZDS2046	DVI-U のみ	mini-DIN 4-pin
コンポジットビデオ 変換アダプタ	ZDC2050	DVI-U のみ	BNC

ストリーミングメディア & 4K 再生モジュール

ストリーミングメディア & 4K 再生モジュールを使用すると、USB ドライブまたは内蔵ストレージの動画や静止画の再生および IP ストリームをデコードして再生できます。

IP ストリームにはストリーミングサーバーや Encoder-100 などの IP エンコーダを使用します。

特長

- IP ストリームを含むビデオクリップの 2 チャンネル同時再生
- USB ドライブからの 4K@30Hz までのビデオクリップ再生
- 最大 100Mbps のシングル IP ストリームを再生
- 最大 40Mbps のデュアル IP ストリームを再生
- 最大 8K 解像度の静止画を再生
- ストリーミングサーバーからメディアを再生
- 最大 20 のプレイリストを作成して保存
- プライマリチャンネルは最大 4K@30Hz をサポート
- セカンダリチャンネルは 1080p@60Hz をサポート
- 最大 1080p@60Hz の IP ストリームをサポート
- 解像度とフレームレートのスケーリング
- 電源起動時にメディアの再生を自動開始可能
- USB2.0 および USB3.0 をサポート
- 16GB または 128GB の内蔵ストレージ (SSD)



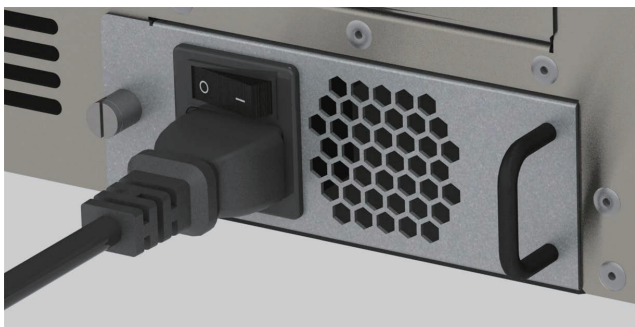
- USB(LED)** USB ドライブのステータスを示します。緑色は USB ドライブが正常に動作していることを示します。赤色は USB ドライブが過電流であることを示します。
- USB3.0** USB ドライブを接続してメディアを再生します。
- USB2.0** 高解像度のビデオクリップを再生するには USB3.0 に対応したドライブを使用することをお勧めします。
- ST1(LED)** カードのステータスを示します。緑色はカードが正しく動作していることを示し、赤色は問題があることを示します。
- ST2(LED)** モジュールのステータスを示します。緑色はモジュールが正しく動作していることを示し、赤色は問題があることを示します。
- LAN** IP ストリームをイーサネット経由で受信します。

もしステータスが赤く点灯し、CORIOmaster™ を再起動しても問題が解決しない場合は、販売店にお問い合わせください。

ストリーミングメディア&4K再生モジュール クイックガイド

はじめに

1. ACコードを接続し、本体の電源を入れます。



USBドライブを接続して直接ビデオクリップを再生するか、イーサネット経由でメディアをストリーミングします。

✓ 4Kビデオクリップの場合、USB3.0対応のUSBドライブをご使用ください。

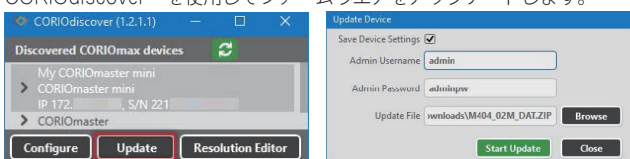


CORIOmaster™の出力がディスプレイに接続されていることと、ACコードが電源コンセントに接続されていることをご確認ください。

2. 必要に応じてtvONEのWEBサイトから最新のファームウェアを入手します。

tvone.com/firmware-updates.

3. CORIOdiscover™を使用してファームウェアをアップデートします。



ファームウェアのアップデートの詳細は32ページを参照してください。

4. tvONEのWEBサイトから最新バージョンのCORIOgrapher™ソフトウェアを入手してください。

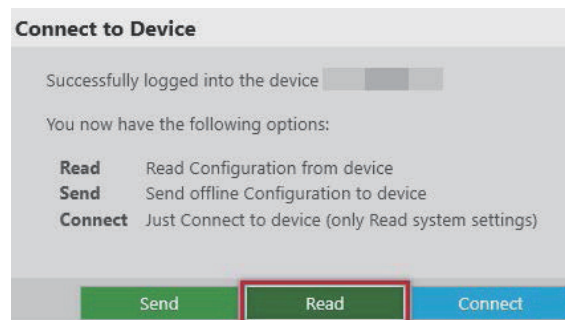
tvone.com/new-CORIOgrapher-videowall-design-software.

5. PCに最新のCORIOgrapher™ソフトウェアをインストールしてください。

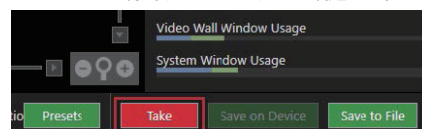
✓ CORIOgrapher™ソフトウェアにはヘルプファイルが含まれています。わからないことは、ヘルプ " ? " を使って検索したり質問をしてください。

CORIOgrapher™ソフトウェアを起動して、ネットワーク設定を選択します。

1. CORIOgrapher™でログインし、「Read」を選択して本体の設定を読み込みます。



ビデオウォールの設定の中にストリーミングメディア&4K再生モジュールのソースを利用するウィンドウを設定し、「Take」を選択してください。

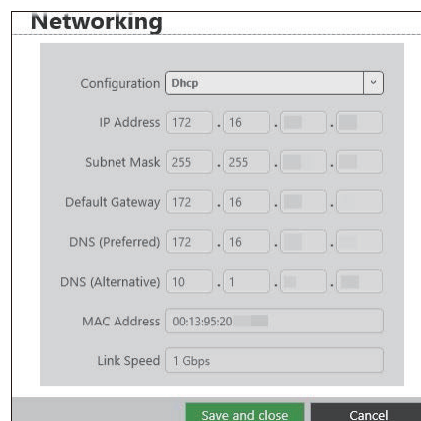
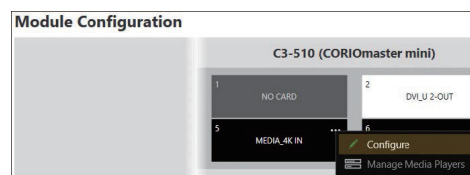


2. USBドライブ内のビデオクリップを再生する場合は、以下の手順を実行する必要はありません。

IP経由でメディアをストリーミングする場合は、ストリーミングメディア&4K再生モジュールのネットワーク設定を選択してください。

⚙️ を選択し、モジュール構成を選択します。

ストリーミングメディア&4K再生モジュールの「Configure」を選択します。



「DHCP」を選択しますと、ネットワーク上にあるDHCPサーバーからIPアドレスが自動で割り当てられます。

・「Static」を選択した場合は、IPアドレスとサブネットマスクを手動で入力します。

・インターネット経由でストリーミングする場合は、ゲートウェイも入力する必要があります。

・また、ソースを名前参照の場合は、DNSも入力してください。



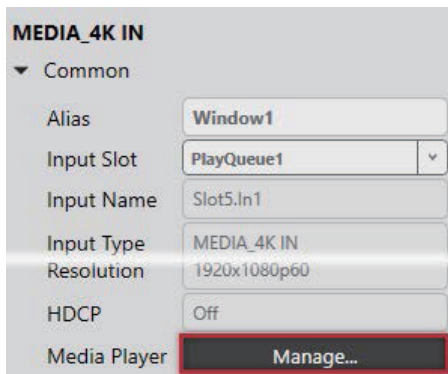
スタティックIPアドレス

IPアドレスを入力する場合、同一ネットワーク上でIPアドレスが重ならないように注意してください。同じIPアドレスが存在すると通信ができない場合があります。

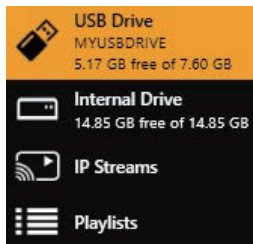
ネットワーク設定に関しては、ネットワーク管理者にご相談ください。

メディアの再生

1. ストリーミングメディア & 4K再生モジュールのウィンドウをダブルクリックしてプロパティを開き、Media Player 項目の「Manage」を選択します。



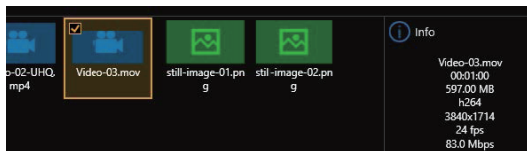
2. メディアソースを選択します。



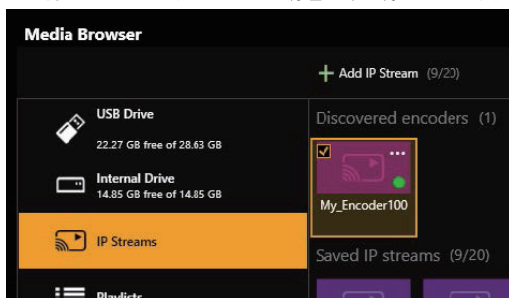
メディアアイテム（ビデオクリップなど）がアイコンで表示されます。



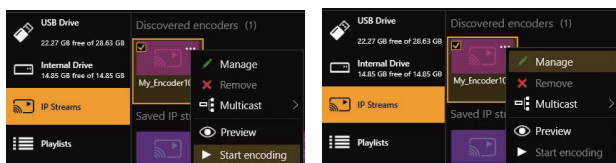
メディアアイテムに関する情報が右側に表示されます。



3. IP ストリームを選択した場合は、接続可能なストリーミングを追加します。Encoder-100 からストリーミングする場合は、エンコードされていることを確認してください。アイコンに緑色の印が付いています。

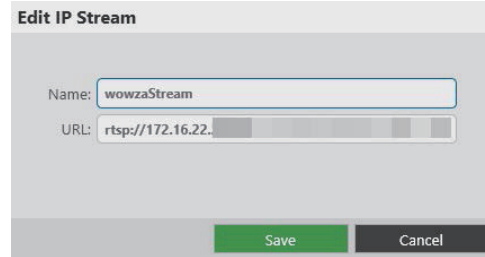


エンコードしていない場合は、エンコーディングを開始する必要があります。

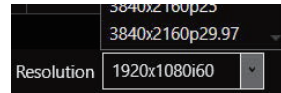


Encoder-100 の設定に関しては、12 ページを参照してください。

インターネット経由または検出されていないエンコーダからストリーミングする場合は、IP ストリームの追加を選択して Edit IP Stream ウィンドウを出して、メディアストリームの名前と URL を入力します。

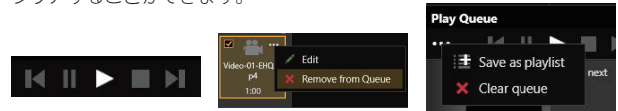


4. メディアストリームの解像度を選択します。



最適な解像度を選択するには、31 ページをお読みください。

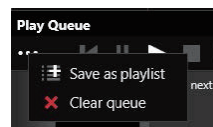
5. 再生するメディアストリームを再生キュー（Play Queue）にドラッグしプレイボタンで再生します。ビデオウォールディスプレイ上でメディアが再生されていることをご確認ください。
6. 再生コントロールは、プレイ、ストップ、一時停止、スキップが利用できます。再生キューに複数のメディアを追加したり削除したり、再生キュー全体をクリアすることができます。



再生キューをループ再生したい場合は、まず再生をストップさせループボタンを押してからプレイします。



7. 再生キューをプレイリストとして保存できます。

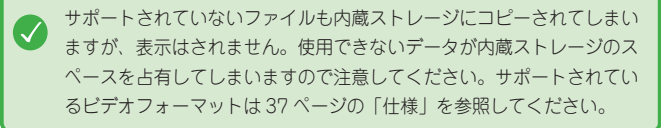


また、プレイリストエディターでプレイリストを作成することもできます。詳細は、28 ページの「プレイリストの作成と管理」を参照してください。

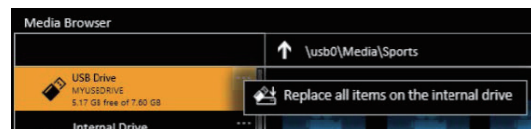
内蔵ストレージの設定

USB ドライブから内蔵ストレージにビデオクリップなどのメディアをコピーすることができます。

USB ドライブから内蔵ストレージにコピーすると、データファイルやフォルダはそのままコピーされ表示されます。



・USB ドライブを選択して、内蔵ストレージのデータをすべて置換えることができます。



内蔵ストレージの使用法の詳細は、30 ページを参照してください。

Encoder-100 について

ストリーミングメディアエンコーダの Encoder-100 を使用すると、ストリーミングメディア & 4K 再生モジュールに高品質のビデオとオーディオをストリーミングすることができます。

特長

- ・ビデオとオーディオを高品位のデジタルストリームに変換
- ・H.264 圧縮による高品位で低帯域幅のエンコード
- ・最大 1080p60fps をサポート
- ・ユニキャストおよびマルチキャストストリーミングをサポート
- ・HDMI ビデオおよびオーディオの入出力
- ・アナログオーディオの入出力
- ・ビデオ信号のプレビュー出力

推奨事項

- ・ギガビットイーサネット環境
- ・シールドタイプの LAN ケーブル (F/UTP または FTP)

Encoder-100 背面パネル



DC 5V	付属の AC アダプタでコンセントに接続
LAN	イーサネットに接続し、エンコードされた IP ストリームをネットワークに送信
PREVIEW	VGA ケーブルでディスプレイに接続し、エンコードされた信号をプレビュー
HDMI OUT	HDMI ケーブルでディスプレイに接続し、エンコードされた信号をプレビュー
HDMI IN	HDMI ケーブルでソース機器と接続し、デジタルビデオ信号とオーディオ信号を入力
AUDIO OUT	3.5mm ステレオミニケーブルでパワードスピーカーに接続して、オーディオ信号をプレビュー
AUDIO IN	3.5mm ステレオミニケーブルでソース機器と接続し、アナログオーディオ信号を入力

オーディオは CORIOmaster micro™ のみがサポートします。

Encoder-100 クイックガイド

使い方はとても簡単です。CORIOgrapher™ のヘルプ "?" で検索することもできます。

Encoder-100 は、HDCP に準拠していません。著作権保護のかかったソース信号はエンコードできません。

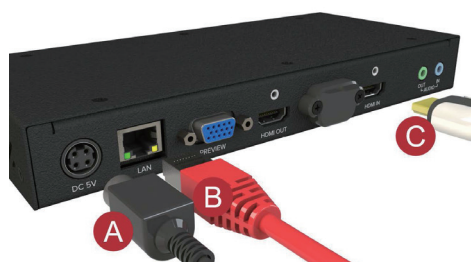
始める前に

Encoder-100 を使用するには、CORIOmaster™ にストリーミングメディア & 4K 再生モジュールをインストールする必要があります。

Encoder-100 でエンコードされた IP ストリームは、ストリーミングメディア & 4K 再生モジュールでデコードされ、再生されます。

Encoder-100 の設定

ケーブルを接続します。

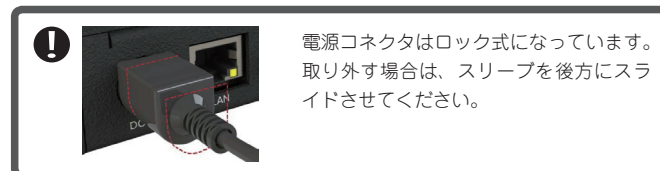


- 電源をコンセントに接続します。
- LAN ケーブルをイーサネットネットワークに接続します。
- HDMI ケーブルでソース機器を接続します。

例えば、ビデオカメラ、内視鏡またはメディアプレイヤーを接続できます。

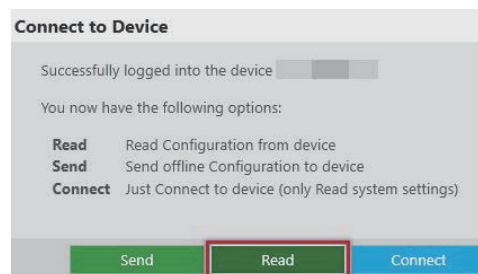
・もしアナログオーディオをストリーミングしたりプレビューしたりする場合は、3.5mm ステレオミニケーブルを接続します。

・もし映像ストリームをプレビューする場合は、VGA ケーブルか HDMI ケーブルでディスプレイに接続します。

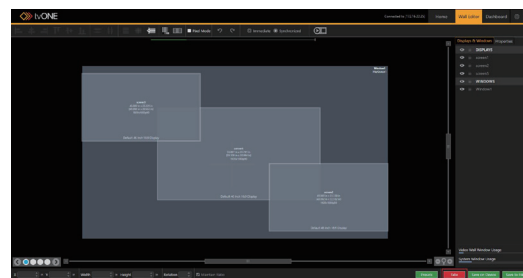


CORIOgrapher™ での Encoder-100 の設定の手順

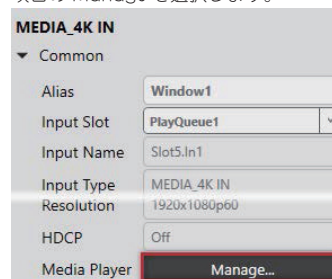
- CORIOmaster™ に PC を接続し CORIOgrapher™ を起動させます。ログインし、本体の設定を読み込んでください。



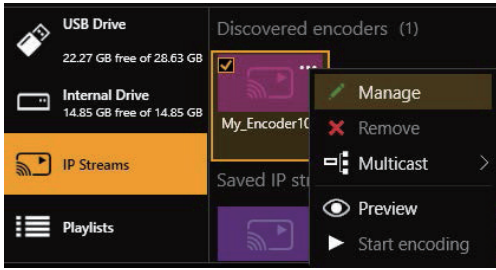
- ビデオウォールにストリーミングメディア & 4K 再生モジュールをウィンドウとして追加し、Take を押します。



- そのウィンドウをダブルクリックしプロパティを表示させ、Media Player 項目の Manage を選択します。



4. IP ストリームを選択し、Encoder-100 の Manage を選択します。

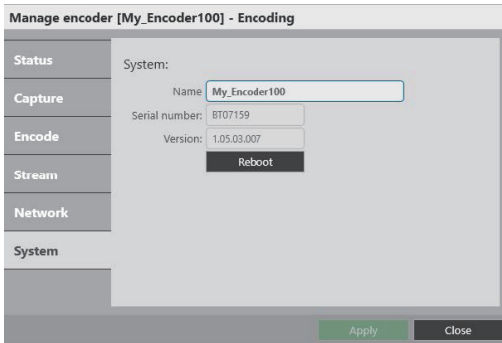


初めて接続した場合は、デバイス ID で名前が表示されます。デバイス ID は Encoder-100 本体の底面で確認できます。

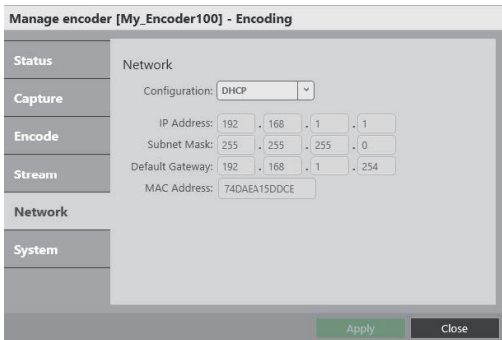
もし Encoder-100 が表示されない場合は、Find を押し Encoder-100 の URL を入力し検索してください。

5. System タブを選択し、Encoder-100 の名前を変更できます。

名前は最大 62 文字までで、空白にすることはできません。



6. Network タブを選択し、Encoder-100 のネットワーク設定をします。



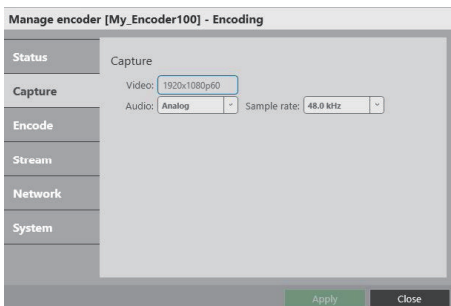
・ DHCP を選択するとネットワーク上の DHCP サーバーによって自動的に IP アドレスが割り当てられます。

・ Static を選択した場合は、IP アドレス、サブネットマスクおよびゲートウェイを手動で入力します。

ネットワーク設定に関しては、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

! **スタティック IP アドレス**
 IP アドレスを入力する場合、同一ネットワーク上で IP アドレスが重ならないように注意してください。同じ IP アドレスが存在すると通信ができない場合があります。

7. Capture タブを選択し、オーディオソースをアナログ入力に変更することができます。

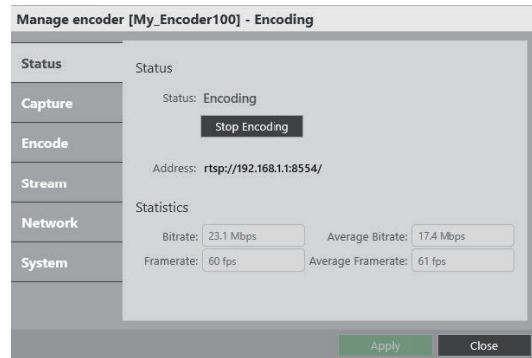


8. Encode タブを選択し、エンコーディングのプロファイルを設定します。

プロファイルは、画質やストリーミング帯域などを考慮して選択します。デフォルトでは High quality (高品質) が選択されています。



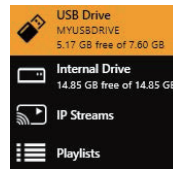
9. Status タブを選択し、エンコーディングをスタートさせます。



エンコーダの設定に関する詳細は、13 ページを参照してください。

ストリーミングメディアの再生

IP ストリームを選択し、ストリームを Encoder-100 から再生キューにドラッグします。プレイボタンを押して再生させます。



ストリーミングメディアの再生についての詳細は、25 ページの「メディアとストリーム」を参照してください。

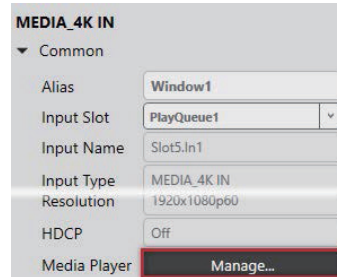
Encoder-100 の設定の詳細

Encoder-100 を使用するには、設定が必要です。エンコーディングを開始したり停止したり、設定を変更したりできます。

CORIOgrapher™ はネットワーク上の全ての Encoder-100 を自動的に検出します。

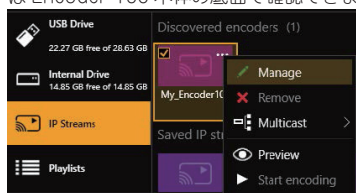
特定の Encoder-100 の設定を開くには

1. ストリーミングメディアを再生するウィンドウをダブルクリックしプロパティを表示させ、Media Player 項目の Manage を選択します。



2. IP ストリームを選択し、Encoder-100 の Manage を選択します。

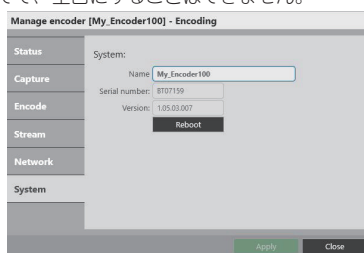
初めて接続した場合は、デバイス ID で名前が表示されます。デバイス ID は Encoder-100 本体の底面で確認できます。



もし Encoder-100 がリストに表示されない場合は、Find を押し、Encoder-100 の IP アドレスを入力し検索してください。

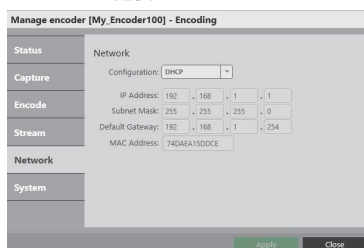
Encoder-100 の名前を付ける

System タブを選択し、Encoder-100 の名前を付けます。名前は最大 62 文字までで、空白にすることはできません。



ネットワーク設定

Network タブを選択し、Encoder-100 のネットワーク設定をします。



- ・ DHCP を選択するとネットワーク上の DHCP サーバーによって自動的に IP アドレスが割り当てられます。
- ・ Static を選択した場合は、IP アドレス、サブネットマスクおよびゲートウェイを手動で入力します。

ネットワーク設定に関しては、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

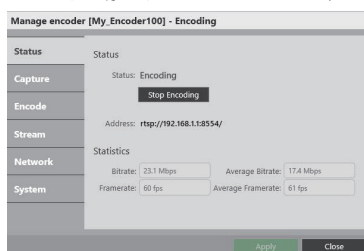


スタティック IP アドレス

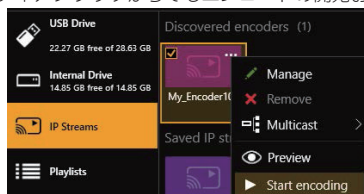
IP アドレスを入力する場合、同一ネットワーク上で IP アドレスが重ならないように注意してください。同じ IP アドレスが存在すると通信ができない場合があります。

エンコーディングの開始と停止

- ・ エンコードを開始するには、Status の「Start Encoding」を選択します。
- ・ エンコードを停止するには、Status の「Stop Encoding」を選択します。



メディアブラウザからでもエンコードの開始および停止ができます。



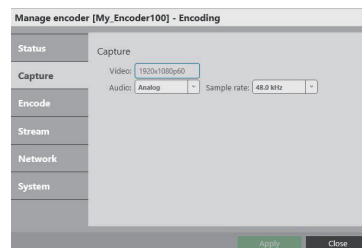
オーディオの設定

オーディオは CORIOmaster micro™ のみがサポートします。

Capture タブで HDMI のデジタルオーディオか、3.5mm ステレオミニのアナログオーディオかを選択できます。

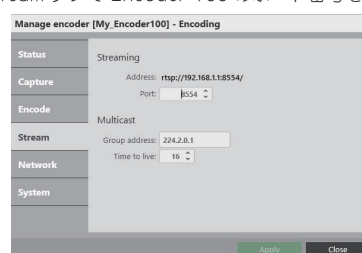
デフォルトは HDMI のデジタルオーディオです。

もしアナログオーディオを選択する場合は、適切なサンプリングレートを設定する必要があります。デフォルトは 48KHz です。



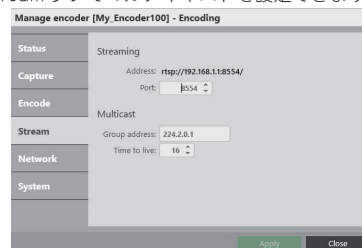
ポート番号の変更

Stream タブで Encoder-100 のポート番号を変更することができます。



マルチキャスト

Stream タブでマルチキャストを設定できます。



グループアドレス

ストリームを受信する装置のグループアドレスを入力します。

224.2.0.1 から 224.2.255.255 の範囲のアドレスを使用することをお勧めします。

Time to live

1 ~ 255 の範囲で値を入力します。

推奨値は、ネットワーク管理者に問合せください。

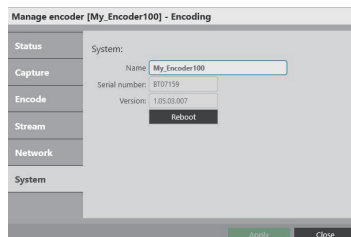


Time to live は高度な設定で、経験豊富なユーザーのみが使用できます。ネットワーク管理者に相談してください。

Encoder-100 の再起動

問題がある場合は、Encoder-100 を再起動することができます。

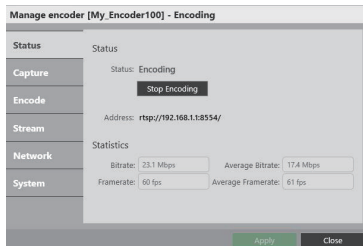
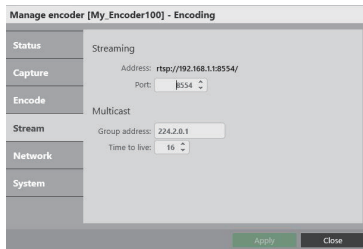
設定を変更するときに再起動する必要はありません。



ストリームのアドレスを探す

エンコーダが検出されない場合に、ストリームのアドレスを知る必要があります。

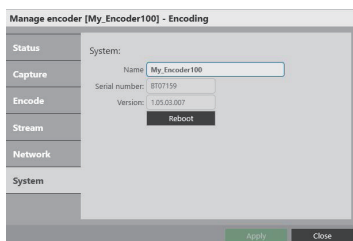
ストリームは、Status タブまたは Stream タブで見ることができます。



詳細は 25 ページの「手動でストリームを追加」を参照してください。

Encoder-100 のシリアル番号とファームウェアバージョン

System タブで Encoder-100 のシリアル番号とファームウェアのバージョンを見ることができます。



Stream タブで Encoder-100 の IP ストリームを管理することができます。

詳しくは 21 ページの「エンコーダとストリームの設定」を参照してください。

Encoder-100 のファクトリーリセット

工場出荷時の設定に戻すには、Encoder-100 のフロントパネルにあるリセットボタンをペーパークリップなどの細い針金を使って LED がオレンジ色になるまで押し続けます。本体が再起動後にデフォルト設定に戻ります。



推奨のハードウェア

製品の性能を十分に発揮させるためには、接続するケーブルなどは高品質なものをご使用ください。

以下の点を考慮してください。

- ・ HDMI や DVI のケーブルは 5m 以内のものをご使用ください。離れた場所に設置する場合は、エクステンダーをご使用ください。
- ・ HDMI ケーブルは、ハイスピードまたはプレミアムケーブルをご使用ください。
- ・ イーサネットケーブルは、シールドタイプをご使用ください。
- ・ USB3.0 に対応した USB ドライブをご使用ください。

ビデオウォールの構築

CORIOmaster™ でビデオウォールを構築するための最初のステップは、レイアウトのプランニングとハードウェアの設置です。

ビデオウォールのプランニング

ビデオウォールのレイアウトをプランニングして、機器構成や接続系統を設計することは非常に重要です。設計することにより、必要な機材が明らかになり

効率よく進めることができます。

設計する際に、次の質問を参考にしてください。

効果について

- ・ ビデオウォールをどのように見せたいですか？
- ・ ビデオウォールをどのくらいの大きさにしたいですか？
- ・ ビデオウォールの目的は何ですか？

ディスプレイについて



ディスプレイ間の映像同期のズレをなくするために、すべてのディスプレイを同じフレームレートで使用する必要があります。

- ・ ディスプレイを何台使用しますか？
- ・ 各ディスプレイのサイズは？
- ・ 各ディスプレイのベゼル幅は？
- ・ 各ディスプレイのネイティブ解像度は？
- ・ ディスプレイは HDCP（著作権保護）をサポートする必要がありますか？
- ・ プロジェクターは何台使用しますか？
 - ・ エッジレンディングする必要がありますか？
 - ・ エッジレンディング時のオーバーラップ幅は？

ソース入力について

- ・ どんなフォーマットのソース信号ですか？
- ・ 各ソースのネイティブ解像度は？
- ・ 各ソースのフレームレートは？
- ・ ソースが CORIOmaster™ に入力される前に切替機やコンバータが必要ですか？

ウィンドウについて

- ・ 必要な効果を得るために、いくつかのウィンドウが必要ですか？（表示しないウィンドウも数に含めます。）
- ・ 各ウィンドウはどの程度の画質が必要ですか？

ウィンドウの数が増えると、すべてのウィンドウを最高画質に設定することができません。画質を下げてもよいウィンドウはありますか？

ウィンドウとは

ウィンドウはソース映像を表示する窓です。ピクチャーインピクチャーのように複数のウィンドウを同時に表示することができます。CORIOgrapher™ ソフトウェアで、ウィンドウのサイズやポジション、傾き（回転）を変更することができます。

プリセット

- ・ プリセットを使用しますか？
- ・ プリセットの呼出を操作するコントローラは何ですか？

プリセットとは

プリセットには、サイズやポジション、傾き、ボーダーなどのウィンドウに関する情報とプリセット間のトランジション効果を保存することができます。

プリセットは、CORIOgrapher™ ソフトウェアのダッシュボードから呼び出したり、CORIOmaster micro™ のフロントパネルのボタンでも実行することができます。

ビデオウォールの設置

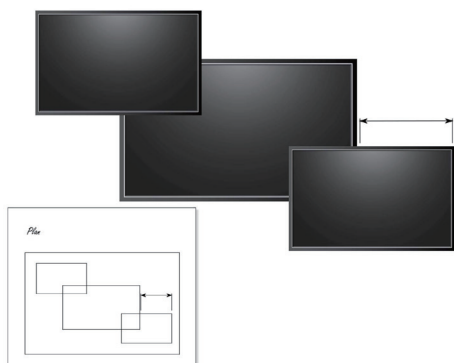
ビデオウォールシステムをデザインし、設計したら機材を設置します。ディスプレイやソース機器などの機材を設置し、ソース機器を CORIOmaster™ の入力モジュールに、ディスプレイを出力モジュールにそれぞれ接続します。

CORIOmaster™ とビデオウォールの設置

機材を設置する場合は、次の点を考慮してください。

- ・必要数の電源コンセント
- ・CORIOmaster™ からソース機器やディスプレイまでの距離
ケーブルが長くなる場合は、信号エクステンダーを使用してください。オプションで HDBaseT 入力モジュールと出力モジュールがあります。
- ・設置環境
電磁波ノイズを受ける可能性がある場所では、シールドタイプのイーサネットケーブルをご使用ください。

ソース機器とディスプレイの配置と接続



1. ビデオウォールのプランに沿ってディスプレイを配置します。各所の寸法を測定することで、CORIOgrapher™ ソフトウェアで正確なビデオウォールを設定することができます。
2. ソース機器を配置します。
3. CORIOmaster™ の出力モジュールにディスプレイを接続します。白色のパネルが出力モジュールです。



✓ どのディスプレイがどのポートに接続されているかをメモしておいてください。CORIOgrapher™ で出力ポートの名前（ラベル）を付けるときに必要です。

4. CORIOmaster™ の入力モジュールにソース機器を接続します。黒色のパネルが入力モジュールです。

✓ どのソース機器がどのポートに接続されているかをメモしておいてください。CORIOgrapher™ で入力ポートの名前（ラベル）を付けるときに必要です。

5. CORIOmaster™ をイーサネットネットワークに接続します。

CORIOgrapher™ ソフトウェアをインストールした PC をこのネットワークに接続します。

シリアル制御のコントローラで CORIOmaster™ を制御する場合は、シリアルケーブルを接続します。



6. CORIOmaster™ を電源コンセントに接続し、電源を入れます。



CORIOgrapher™ ソフトウェアでビデオウォールの各種設定をすることができます。

CORIOgrapher™ でビデオウォールを設定する

ハードウェアの設置が終了し、CORIOgrapher™ をインストールした PC を接続したら、CORIOgrapher™ でビデオウォールの設定を始めることができます。

CORIOgrapher™ について

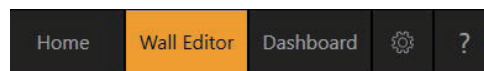
CORIOgrapher™ は CORIOmaster™ を制御するソフトウェアです。判りやすいユーザーインターフェースで最大 4 つのビデオウォール（キャンパス）を管理できます。

CORIOgrapher™:

- ・ Windows7 および 10 に対応
- ・ タブレットやスマートフォンなどのタッチスクリーン専用端末では動作しません。
- ・ Windows.NET4.6 をインストールする必要があります。
- ・ インストールには 600MB のディスクスペースが必要です。
- ・ インストール後は約 50MB のサイズになります。

プレビュー機能を使用するには、Windows®MediaPlayer がインストールされている必要があります。

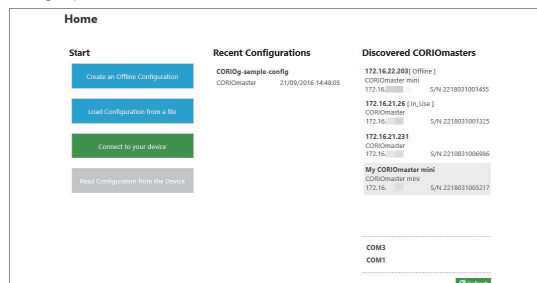
CORIOgrapher™ メニュー



HOME	Home では、CORIOmaster™ にログインしたり、本体の設定を CORIOgrapher™ に読み込んだり、本体に設定ファイルをロードさせたり、オフラインで構成を作成することができます。
Wall Editor	Wall Editor では、ビデオウォールの各種設定をしたり、プリセットを作成して保存できます。
Dashboard	Dashboard では、プリセットを呼び出したりビデオウォールの動作を制御できます。
⚙️	設定では、システム、ネットワーク、モジュールの設定をします。
?	? はオンラインヘルプを開きます。

CORIOgrapher™ を使い始める

CORIOgrapher™ を起動すると、以下のような Home 画面が表示されます。



CORIOmaster™ に接続された周辺機器が動作している場合は、ソース機器やディスプレイの情報が検出されオンラインでビデオウォールの構成を設定できます。

もし、CORIOmaster™ を含むハードウェアが動作していない場合でも、オフラインで構成を作成し、後で CORIOmaster™ にロードさせることができます。

CORIOmaster™ に接続して設定を取得する

CORIOgrapher™ を使い始める最も簡単な方法は、CORIOmaster™ から現在の設定情報を直接取得することです。

- 1、Home から検出された CORIOmaster™ にログインします。

CORIOmaster™ が検出されていない場合は、Refresh を押します。

CORIOmaster™ にログインするためには PC の IP アドレスが CORIOmaster™ と同一のセグメントに設定されている必要があります。

- 2、管理者権限で CORIOmaster™ にログインします。

ユーザ名は「admin」でパスワードは「adminpw」です。

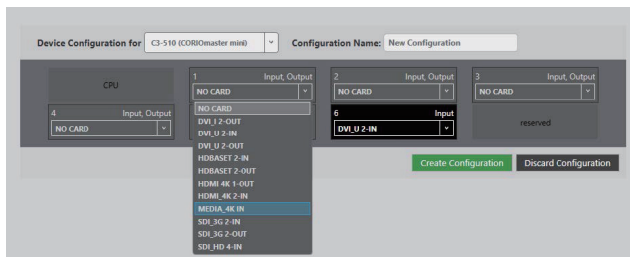
- 3、CORIOmaster™ にログインする際、「Read」を選択して本体の状態を読み込み、Wall Editor 画面が表示されます。

オフラインで構成を作成するには

オフラインの場合は、CORIOmaster™ と接続する必要はありません。但し、実機の構成通りの入出力モジュールを設定する必要があります。

- 1、Home 画面から「Create an Offline Configuration」を選択します。
- 2、Configuration Editor で、使用する CORIOmaster™ の機種を選択し、Configuration Name に名前を付けます。選択した機種の背面パネルのグラフィックが表示されます。
- 3、各スロットについて、プルダウンメニューから該当するモジュールを選択し、最後に Create Configuration ボタンを押します。

PC 上に設定ファイルが作成されます。



- ・使用可能なスロットの数は、機種により異なります。
 - ・全てのスロットを使用する必要はありません。
 - ・実際に使用する CORIOmaster™ のモジュール構成通りに設定してください。
 - ・モジュールの配置場所には、ガイドラインがいくつかあります。
- CORIOmaster™、CORIOmaster mini™、CORIOmaster micro™ のそれぞれの構成は 6 ページを参照してください。

CORIOmaster™ に作成した設定をロードさせるには

オフラインで作成した設定や保存された設定を CORIOmaster™ にロードすることができます。

設定ファイルは予め PC に保存しておきます。

- 1、Home 画面から接続した CORIOmaster™ にログインします。
- ユーザ名は「admin」でパスワードは「adminpw」です。
- 2、CORIOmaster™ にログインする際、「Send」を選択してロードさせたい設定ファイルを選択します。ロードした設定ファイルの状態で立ち上がり、Wall Editor 画面が表示されます。

入出力ポートの名前

各スロットの入力ポートや出力ポートに名前を付けることができます。

どうして名前が必要ですか？

CORIOgrapher™ 上で、各入出力ポートには名前が付きます。

例えば、s1i1 という名前は、スロット 1 の入力 1 ということを示します。この名前は、背面パネルのポートの位置を示しています。

この s1i1 という名前を Camera 1 という名前に変更することができます。そうすることで何が接続されているのかを識別しやすくなります。

ストリーミングメディア & 4K 再生モジュールの入力ポートの名前について

ストリーミングメディア & 4K 再生モジュールには、2 つの仮想入力ポートがあります。各ポートはストリーミング入力などのポートに関連しているわけではなく、再生キューを参照します。

ですから、再生キューに USB ドライブのビデオクリップや IP ストリームなどの複数のソースを設定する場合は、Play 1 や Play 2 などの名前をお勧めします。

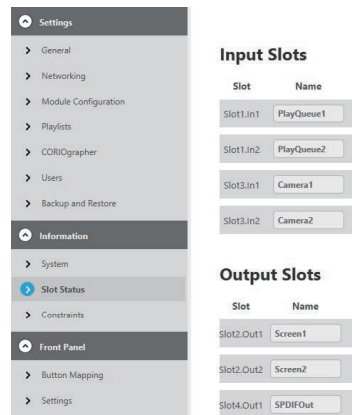
もし再生キューに特定のストリーミングサーバーを設定した場合は、WOWZAstream などの名前を使用しても良いでしょう。

ネーミングのルール

名前は固有でアルファベットから始まる必要があります。文字はアルファベットと数字とアンダースコアを使用でき、最大 21 文字まで入力できます。

入力ポートと出力ポートの名前

- 1、CORIOgrapher™ で を選択し、Slot Status 項目を選択します。
- 2、ポートごとに固有の名前を付けます。



- 3、変更した名前を本体に保存するには、Wall Editor 画面の Save on Device ボタンを押します。

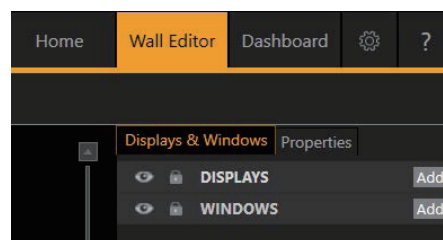
もしオフラインで設定した場合は、Wall Editor の Save to File ボタンを押して PC 上に保存してください。

ビデオウォールを作成する

CORIOgrapher™ でビデオウォールを作成するには、ソース機器とディスプレイを接続する必要があります。

ビデオウォールの作成

- 1、Wall Editor でディスプレイ「Add」を選択します。

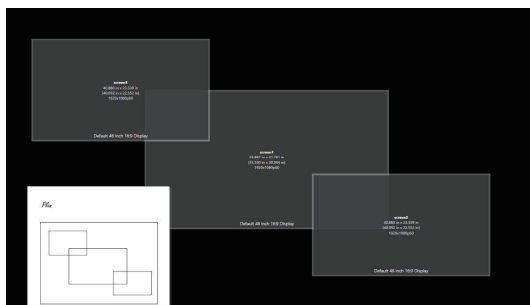


- 表示されたディスプレイを選択して、ビデオウォールのワークスペースにドラッグします。



使用するディスプレイをすべてこの手順で追加します。

- 設計したレイアウトプランに沿ってディスプレイを配置します。



- ウインドウ「Add」でディスプレイと同様にウインドウを追加します。
- 設定が完了したら、「Take」ボタンを押して設定を反映させ、Save on Device ボタンを押して本体に設定を保存します。

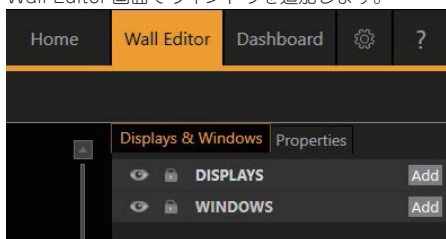
ビデオウォールに画像が正しく表示されるかどうかをテストします。

ビデオウォールのテスト

基本的なビデオウォールを作成した後、接続が正しいか、ディスプレイやウインドウの名前が正しいかを確認します。

- ✓ 入力ポートと出力ポートに名前を付けておくと、ディスプレイやウインドウの選択がわかりやすくなります。

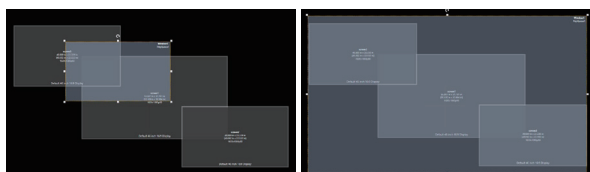
- Wall Editor 画面でウインドウを追加します。



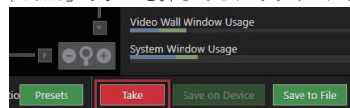
- 表示されたウインドウを選択して、ビデオウォールのワークスペース上にドラッグします。



- ビデオウォールの端から端までウインドウが覆うようにサイズを大きくします。

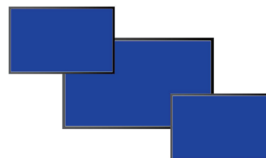


- 「Take」ボタンを押してビデオウォールに反映させます。



- ソースを再生させ、ビデオウォールが正しく表示しているか確認します。

例 1



上の図例 1 は、
✗ブルースクリーンや意図したソースが表示されない

考えられる原因：

- ・ソース機器が正しく接続されていない
- ・入力ポートの名前が間違っているため、ソースの選択が正しくない
- ・ソースが再生していない
- ・ソースの解像度がサポートされていない
- ・ディスプレイが HDCP に対応していない
- ・ソースの HDCP キーの数がディスプレイの数を満たしていない
- ・ケーブルの品質が悪い、損傷している

例 2



上の図例 2 は、
✓ソースが正しく接続され、再生されている

✗画像が間違った位置に表示されている

考えられる原因：

- ・CORIOgrapher™ でディスプレイが正しく配置されていない
- ・出力ポートの名前が間違っているため、ディスプレイが正しく接続されていない

例 3



上の図例 3 は、

- ✓ソースとディスプレイが正しく接続され配置されている

- テストが成功した場合は、更にウインドウを追加し各入力に対してテストを繰り返します。
- CORIOmaster micro™ の場合は、各ウインドウのオーディオも確認します。Audio タグの Audio Follows 項目で順番にウインドウを選択します。



選択したウインドウのソースの音声聞こえることを確認します。

- テストが終了したら Take ボタンを押して反映し、Save on Device ボタンを押して本体に設定を保存します。

Wall Editor を使ってサイズやポジションなどを微調整することによって、より正確な表示にすることができます。

■本体の設定


CORIOgrapher™ でログインし、CORIOmaster™ 本体の各種設定やビデオウォールの作成、各種設定のバックアップと復元、工場出荷時のデフォルト設定にリセットするなどが操作できます。

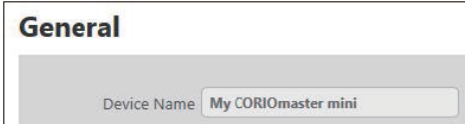
CORIOmaster™ に名前を付ける

CORIOmaster™ に名前を付けることができます。

ネットワーク上に複数の CORIOmaster™ がある場合、それぞれに名前が付いていることで、必要なユニットを素早く確認することができます。


名前を付ける方法

- 1、 を選択し、General 項目を選択します。
- 2、Device Name に任意の名前を入力します。



ファクトリーリセット


CORIOmaster™ の動作が不安定になったり、すべての設定と保存したプリセットを削除する必要がある場合は、工場出荷時のデフォルト設定にリセットすることができます。

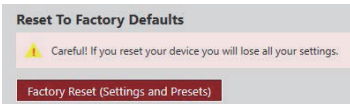
 ファクトリーリセットをすると、すべての設定が削除されます。

ファクトリーリセットをする前に、設定をバックアップすることができます。バックアップしておけば、いつでも設定を復元することができます。

設定のバックアップと復元については、18 ページの「設定のバックアップと復元」を参照してください。

ファクトリーリセットする方法

- 1、 を選択し、General 項目を選択します。
- 2、Factory Reset ボタンを押します。

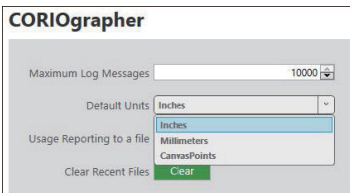


単位を選択

ビデオウォールを構築する場合は、寸法の単位をインチやミリメートルから選択します。キャンバスポイントを選択しますと、ピクセル単位でビデオウォールを設定することができます。

単位の選択方法

- 1、 を選択し、CORIOgrapher™ 項目を選択します。
- 2、Default Units 項目から希望する単位を選択します。



設定のバックアップと復元

変更した設定は、CORIOmaster™ 本体内部のメモリーおよび PC のデスクトップ上にファイルとして保存することができます。いずれからも設定を復元することができます。

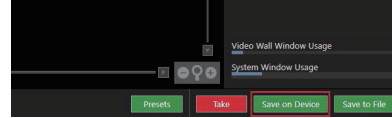
また、CORIOmaster™ が同じハードウェア構成を持っていれば、設定ファイルを共有することができます。

以下の設定がバックアップファイルに保存されます。

- ・プリセット
- ・変更した名前やネットワークなどの基本設定
- ・ビデオウォールの設定
- ・ストリーミングメディア & 4K 再生モジュールの再生キュー
- ・手動で追加されたストリーム

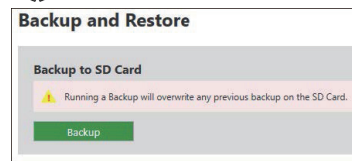
本体に保存されない設定

ファイルに保存していない作業や Save on Device で本体に保存した作業はバックアップファイルに保存されません。




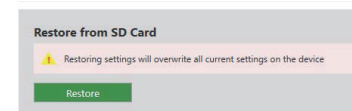
設定を本体にバックアップする方法

- 1、すべての作業を保存したことを確認します。
- 2、 を選択し、Backup and Restore 項目で Backup ボタンを押します。



本体に保存した設定を復元する方法

- 1、 を選択し、Backup and Restore 項目を選択します。
- 2、Restore ボタンを押します。



設定を PC 上のファイルに保存する

以下の設定がバックアップファイルに保存されます。

- ・プリセット
- ・変更した名前やネットワークなどの基本設定
- ・ビデオウォールの設定
- ・手動で追加されたストリーム
- ・カスタム解像度

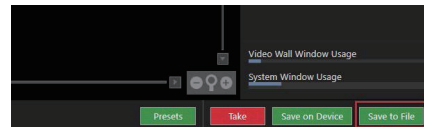
注：名前とネットワーク設定はバックアップファイルとして保存されますが、復元するときは含まれません。これにより、名前とネットワーク設定が競合することなくバックアップファイルを複数の本体で共有することができます。

PC に保存されない設定

ストリーミングメディア & 4K 再生モジュールの再生キューとプレイリストは PC に保存されません。

設定を PC に保存する方法

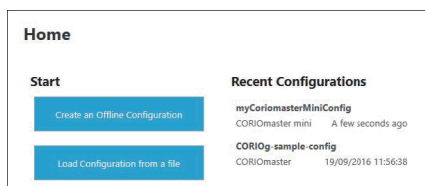
- 1、Wall Editor から Save to File ボタンを押します。



- 2、ファイルの保存場所を選択して保存します。

PC に保存した設定を復元する

1. PC を CORIOmaster™ に接続し、CORIOgrapher™ を立ち上げます。
2. Home 画面の Recent Configurations から保存した設定ファイルを選択します。



もしリストに設定ファイルが表示されない場合は、Load Configuration from a file ボタンからファイルを参照します。

複数のユニットで設定ファイルを共有する場合の注意点

異なる機種間での設定ファイルの共有はできません。つまり CORIOmaster micro™ の設定ファイルは CORIOmaster mini™ では使用できません。

入出力モジュールの構成が違っていても設定を共有することはできません。


ファームウェアのバージョンが異なる場合は、復元が正常に行われない可能性があります。

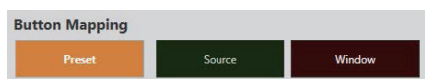
■ CORIOmaster micro™ の設定

CORIOmaster micro™ のフロントパネルのボタンの設定を説明します。

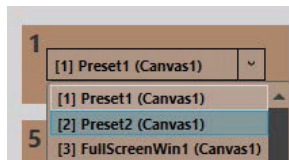
CORIOmaster micro™ は、フロントパネルのボタンでプリセット呼出やソース切替、ウィンドウ切替を選択することができます。CORIOgrapher™ を使ってボタンの機能を設定します。

フロントパネルのボタンに機能を設定する

1.  を選択し、Button Mapping 項目を選択します。
2. 設定したいモード (Preset、Source、Window) を選択します。




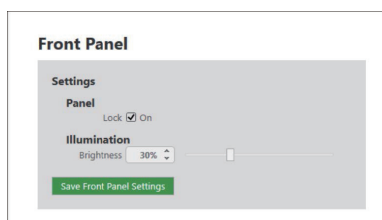
3. 各ボタンについて、プルダウンリストからボタンの機能を選択します。




4. モードを切り替えて、同様にボタンの機能を選択し、最後に Save ボタンを押して保存します。

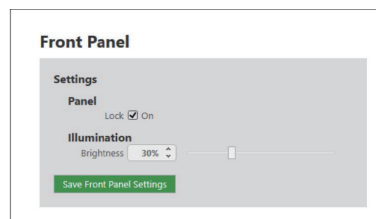
ボタンの明るさを変更する

1.  を選択し、Front Panel 項目を選択します。
2. スライダーを使って明るさを調整し、Save Front Panel Settings ボタンを押して保存します。



フロントパネルのボタンをロックする

1.  を選択し、Front Panel 項目を選択します。
2. Panel の Lock をチェック (ON) して Save します。チェックを外すと解除します。



■ ユーザーの設定

CORIOmaster™ ヘロログインするユーザーの作成と編集ができます。タイムアウト時間の設定やパスワードの変更が可能です。

ユーザーの作成と編集

ユーザーの追加は最大 4 人まで可能です。

ユーザーの役割

CORIOgrapher™ は 4 人のユーザーを追加できますが、最初は Administrator (管理者権限) のみが設定されています。

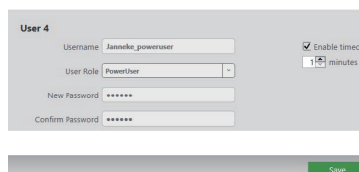
各ユーザーには権限を割り当てることができます。


タイムアウト時間

CORIOmaster™ には複数のユーザーが同時にログインできませんので、誰かがログインしていると他のユーザーはログインができません。そこで、デフォルトではタイムアウト時間が 5 分に設定されており、操作を何もしない時間が 5 分経つと接続が切れるようになっています。

タイムアウト時間は短く設定することもできますが、5 分以上接続を維持するには、「Enable Timeout」のチェックを外すと永続的に接続することができます。


ユーザーの作成と編集の手順



1.  を選択し、Users 項目を選択します。
2. 使われていないユーザー (2 ~ 5) を新しく追加するか、既存のユーザーを編集するかを選びます。
3. ユーザー名を入力します。名前はアルファベットから始まる必要があります。文字はアルファベットと数字とアンダースコアを使用できます。
4. ユーザー権限を選択します。
5. ログインするためのパスワードを設定し、Confirm Password に同じパスワードを入力して間違いがないかを確認します。

パスワードは 5 ~ 32 文字で、アルファベットで始まる必要があります。英数字以外に記号も使用できますが、スペースを入れることはできません。

6. Enable timeout を有効にした場合は、1 ~ 540 分の任意のタイムアウト時間を設定します。無効にした場合は、永続的に接続されます。

 1 ~ 5 分のタイムアウト時間を推奨します。

7. Save ボタンを押して設定を保存します。

パスワードの変更

1. を選択し、Users 項目を選択します。
2. 変更したいユーザーを選択して、New Password に新しいパスワードを入力します。
3. Confirm Password に同じパスワードを入力して間違いがないかを確認し、Save ボタンを押して保存します。

■ネットワーク設定

Administrator でログインした場合、CORIOmaster™ 本体のネットワーク設定とストリーミングメディア& 4K 再生モジュールのネットワーク設定を変更することができます。

CORIOmaster™ のネットワーク設定

IP アドレスの取得方法は DHCP モードとスタティックモードから選べます。

スタティックモードで IP アドレスを設定する場合は、使用できる IP アドレスの範囲をネットワーク管理者に確認してください。

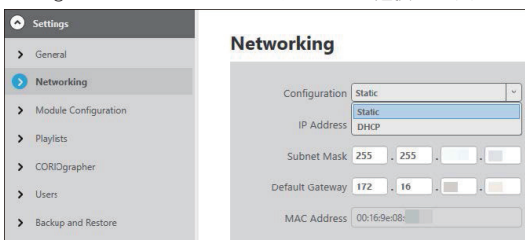


スタティック IP アドレス

IP アドレスを入力する場合、同一ネットワーク上で IP アドレスが重ならないように注意してください。同じ IP アドレスが存在すると通信ができない場合があります。

ネットワーク設定の手順

1. を選択し、Networking 項目を選択します。
2. Configuration から Static または DHCP を選択します。



DHCP を選択するとネットワーク上の DHCP サーバーによって自動的に IP アドレスが割り当てられます。

3. Static を選択した場合は、IP アドレスおよびサブネットマスクを手動で入力します。

CORIOmaster™ とコントロール PC が異なるネットワーク上にある場合は、ゲートウェイを入力します。

ネットワーク設定に関してはネットワーク管理者にご相談ください。

ストリーミングメディア& 4K 再生モジュールのネットワーク設定

ネットワーク経由で IP ストリーミングをする場合は、ストリーミングメディア & 4K 再生モジュールのネットワーク設定が必要です。

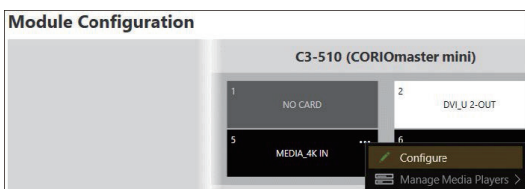
USB ドライブや内蔵ストレージのビデオクリップを再生する場合は、ネットワーク設定の必要はありません。

また、IP ストリーミングの場合は、エンコーダ側 (Encoder-100 など) のネットワーク設定も必要です。

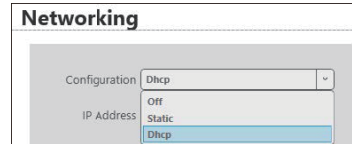
Encoder-100 については 10 ページの「Encoder-100 について」を参照してください。

ストリーミングメディアモジュールのネットワーク設定の手順

1. を選択し、Module Configuration 項目を選択します。
2. ストリーミングメディア & 4K 再生モジュールから Configure を選択します。

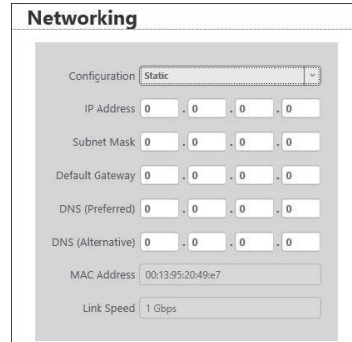


3. Configuration から Static または DHCP を選択します。



・DHCP を選択するとネットワーク上の DHCP サーバーによって自動的に IP アドレスが割り当てられます。

4. Static を選択した場合は、IP アドレスおよびサブネットマスクを手動で入力します。



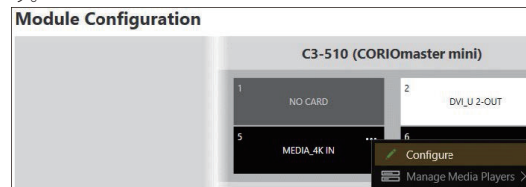
・Wowza server などのインターネット上のストリーミングサーバーからストリーミングする場合は、ゲートウェイを入力します。

・ソース元を名前で参照する場合は、DNS を入力します。

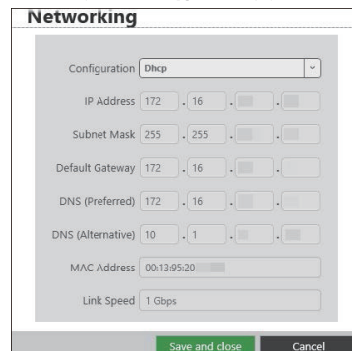
ネットワーク設定に関してはネットワーク管理者にご相談ください。

ストリーミングメディア& 4K 再生モジュールの MAC アドレスを確認する

1. を選択し、Module Configuration 項目を選択します。
2. ストリーミングメディア & 4K 再生モジュールから Configure を選択します。



3. MAC アドレスが確認できます。



■プレイリストの設定

ストリーミングメディア&4K再生モジュールのプレイリストの内容を表示したり、削除したり、複数のモジュール間で移動したり、プレイリスト名を変更したりすることができます。

プレイリスト名の変更とモジュール間の移動

全てのプレイリストを表示して、名前を変更したりモジュール間で移動したりできます。

プレイリスト名の変更

1. を選択し、Playlists 項目を選択します。
2. Name の項目で直接プレイリスト名を入力し変更できます。

Number	Name	Module	Resolution	
1	Playlist 1	Slot2	1920x1080p60	Remove
2	Playlist 2	Slot2	1920x1080p60	Remove
3	Playlist 3	Slot2	1280x720p60	Remove

プレイリストの移動

1. を選択し、Playlists 項目を選択します。
2. Module の項目でスロットを変更して、そのプレイリストを別のモジュールに移動できます。

Number	Name	Module	Resolution	
1	Playlist 1	Slot2	1920x1080p60	Remove
2	Playlist 2	Slot2	1920x1080p60	Remove
3	Playlist 3	Slot2	1280x720p60	Remove

プレイリストの削除

全てのプレイリストを削除する方法と、個々のプレイリストを削除する方法があります。

全てのプレイリストを削除

1. を選択し、Playlists 項目を選択します。
2. Remove all playlists ボタンを押します。

Playlists

Total

Used

Available

Remove all playlists

個々のプレイリストを削除

1. を選択し、Playlists 項目を選択します。
2. 削除したいプレイリストの Remove ボタンを押します。

Number	Name	Module	Resolution	
1	Playlist 1	Slot2	1920x1080p60	Remove
2	Playlist 2	Slot2	1920x1080p60	Remove
3	Playlist 3	Slot2	1280x720p60	Remove

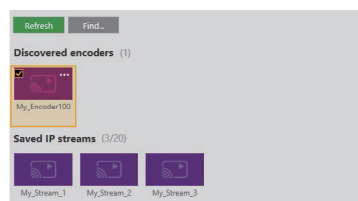
エンコーダとストリームの設定

接続された全てのエンコーダに保存されたストリームを表示し管理できます。

- を選択し、IP Streams 項目を選択します。

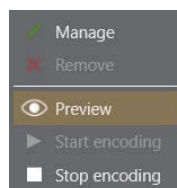
エンコーダの管理

CORIOgrapher™ で検出されたエンコーダが表示されます。



できることは

- ・エンコーダ検出の更新
- ・自動的に表示されなかったエンコーダの検索
- ・エンコーダの詳細の表示
- ・非アクティブなエンコーダの削除
- ・エンコーダのストリームをプレビュー
- ・エンコードの開始と停止



Encoder-100 の設定に関しては、11 ページを参照してください。

保存されたストリームの管理

手動で追加や保存したストリームは、Saved IP Streams に表示されます。

- ・保存されたストリームの数と、追加可能なストリームの数を確認できます。
- ・ストリームを追加するボタンと、すべてのストリームを削除するボタンがあります。

IP Streams

Total

Used

Available

Add IP Stream Remove all saved IP streams

- ・保存されたストリームの名前と URL を編集できます。

1. 保存されたストリームから Edit を選択します。
2. ストリームの名前や URL を編集して、Save ボタンを押して保存します。

Edit IP Stream

Name:

URL:

Save Cancel

■CORIOgrapher™ の操作

ビデオウォールを構築したあと、ストリーミングを再生したり、トランジションやエフェクトを追加したりする演出ができます。

プリセット

CORIOgrapher™ で最大 50 個のプリセットを作成して保存することができます。

プリセットの作成と編集

既存のプリセットを編集したい場合は、そのプリセットを呼出してからプリセット内容を編集し上書きで保存してください。

プリセットとは

プリセットには、ウィンドウのサイズやポジション、傾き、ボーダーの付加および回転などのトランジション効果を設定することができます。保存したプリセットは、CORIOgrapher™ のダッシュボードで呼び出すか、CORIOmaster micro™ のフロントボタンで呼び出すことができます。

プリセットに含まれる項目

プリセットに保存できる情報は

- ・各ウィンドウのソース入力
- ・ウィンドウのポジション
- ・ウィンドウ表示のプライオリティ（レイヤー優先順位）
- ・ウィンドウのサイズ
- ・ウィンドウの傾き
- ・ボーダーの付加（幅や色など）
- ・ウィンドウの反転（上下左右）
- ・トランジション効果（フェード、移動、回転など）

プリセットに含まれない情報は

- ・システム設定
- ・ディスプレイ情報
- ・アクティブでないビデオウォール設定
例えば、ビデオウォール1（キャンパス1）とビデオウォール2（キャンパス2）が設定されている場合、ウォールエディタでビデオウォール1が開いている場合には、プリセットにはビデオウォール1の情報のみが保存されます。
- ・音声を再生しているウィンドウ情報
- ・ウィンドウプロパティのエイリアス、画質など

✓ 全ての情報をバックアップファイルとして保存することができます。詳しくは18ページの「設定のバックアップと復元」を参照してください。

最良の結果を得るために

思い通りの動作を得るには、以下のアドバイスを参考にしてください。

最初のプリセットにウィンドウをすべて含める

最初のプリセットには以降全てのプリセットで使用するウィンドウをすべて含めます。そのプリセットで表示しないウィンドウでもディスプレイの表示外にウィンドウを縮小させ帯域幅を小さくして置いておきます。

プリセットではウィンドウを追加したり削除したりしない

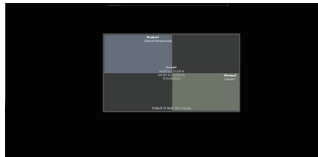
表示しているウィンドウを消去するような効果の場合は、ウィンドウを削除せずに、ディスプレイの表示外に移動するようにプログラムしてください。

不要なビデオ帯域を減らすために、表示外にあるウィンドウはサイズを縮小してください。

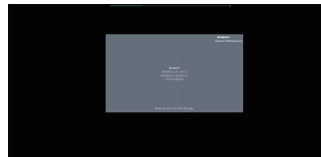
注：表示外のウィンドウもビデオ帯域を占有しています。

表示外に移動でプログラミングしてもデューレーションを0秒に設定すればカットでウィンドウが消えます。

✓ プリセット1



✗ プリセット2



✓ プリセット2



プリセットを使用してウィンドウの画質を変更しないでください。

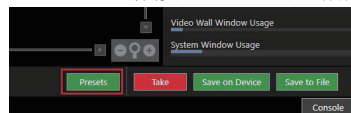
ウィンドウの画質はプリセットに含まれませんので、例えばEHQ品質のウィンドウをプリセットでUHQに変更するようなことはできません。

プリセットで使用したウィンドウは、1つのビデオウォール（キャンパス）でのみ表示されます。

例えば、ビデオウォール1にウィンドウ1を含むプリセットを保存すると、ビデオウォール2ではウィンドウ1を使用できません。ビデオウォール2でウィンドウ1を使用できるようにするには、ビデオウォール1で保存したウィンドウ1を含むプリセットを削除してください。

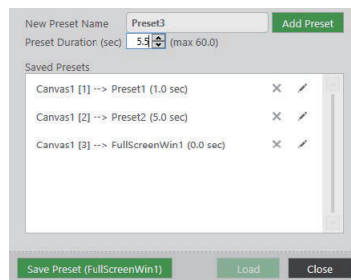
プリセットの保存

- 1、Wall Editorで保存するレイアウトを作成し、Presets ボタンを押します。



- 2、プリセット名を入力します。

名前は最大19文字までで、スペースとピリオドは使えません。



- 3、Preset Duration の時間を入力します。

デューレーションはこのプリセットに移行するまでの時間です。

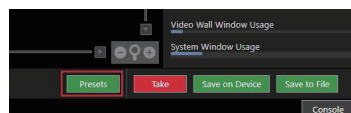
- 4、Add Preset ボタンを押します。プリセットが追加されます。

プリセットの編集

プリセットの名前とデューレーションを変更することができます。

プリセットを編集する手順

- 1、Presets を選択します。



- 2、編集したいプリセットの✎アイコンを押します。

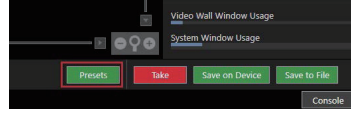
- 3、名前やデューレーションを変更します。

- 4、Close を押して終了します。

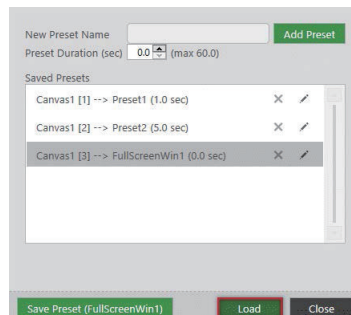
プリセットをウィンドウのレイアウトも含めて更新する

最初に変更したいプリセットを呼び出します。

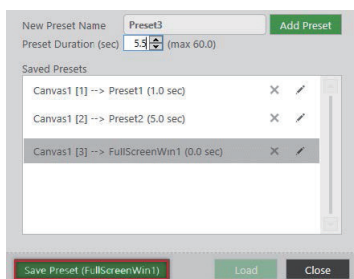
- 1、Presets を選択します。



- 2、リストの中から変更したいプリセットを選んで、Load ボタンを押して呼び出します。



- 一度プリセットを Close して、レイアウトなどを変更します。
- 再度 Presets を選択して、Save Preset ボタンを押して保存します。

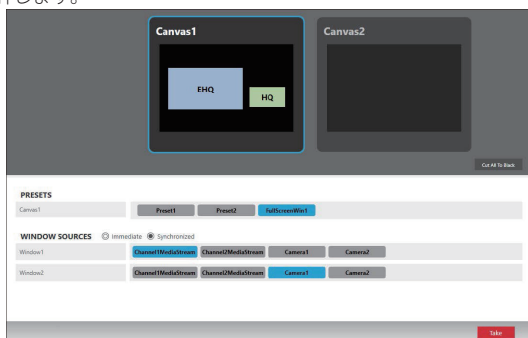


プリセットの呼出（実行）

保存したプリセットは、CORIOgrapher™ のダッシュボードで呼び出すことができます。また、CORIOmaster micro™ を使用している場合は、フロントボタンでプリセットを選択できます。

CORIOgrapher™ でプリセットを呼出す手順

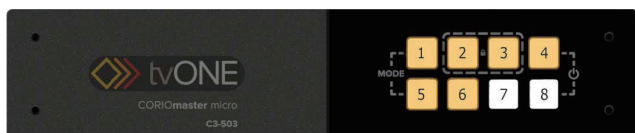
CORIOgrapher™ のダッシュボード画面から呼び出したいプリセットのボタンを押します。



CORIOmaster micro™ のフロントボタンで呼出す手順

CORIOmaster micro™ のフロントパネルには8つのボタンがあります。デフォルトの設定では、8つのボタンはプリセットの1～8に対応しています。これらのボタンには、任意のプリセット番号を割り当てることができます。

19ページの「フロントパネルのボタンに機能を設定する」を参照してください。

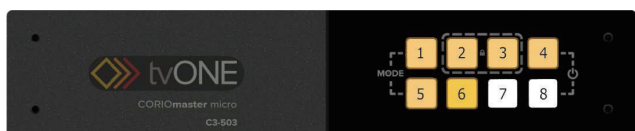


CORIOmaster micro™ がプリセット選択モードになっているときはボタンがオレンジ色に点灯します。プリセット情報が保存されていないボタンは消灯しています。（上図のボタン7と8）

- CORIOmaster micro™ がプリセット選択モードになっていることを確認します。

ボタン1と5を同時に長押しするとモードが切り替わり、プリセット選択モードにできます。

- 呼出したいプリセットに対応したボタンを押します。



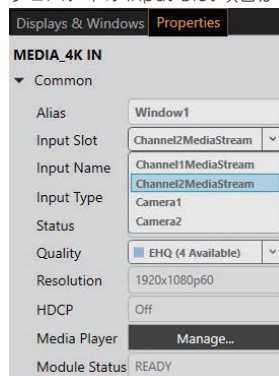
注：ボタンが点滅している間は、別のプリセットを選択することができません。点滅が止まるまでお待ちください。

ウィンドウの入力ソースを切り替える

ウィンドウ毎に入力ソースを切り替えることができます。CORIOmaster micro™ はフロントパネルのボタンで切り替えることができます。

CORIOgrapher™ で切り替える手順

- Wall Editor で切り替えたいウィンドウをダブルクリックして、ウィンドウのプロパティを表示します。
- プロパティの Input Slot 項目からソースを選択します。

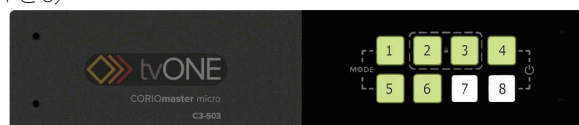


CORIOmaster micro™ のフロントボタンで切り替える手順

フロントパネルのボタンで最大8つのソースを切り替えることができます。デフォルトの設定では順番に8つのソースに対応していますが、任意のソースをボタンに割り当てることができます。

19ページの「CORIOmaster micro™ の設定」を参照してください。

CORIOmaster micro™ がソース選択モードになっているときはボタンが緑色に点灯します。対応するソースが無いボタンは消灯しています。（下図のボタン7と8）

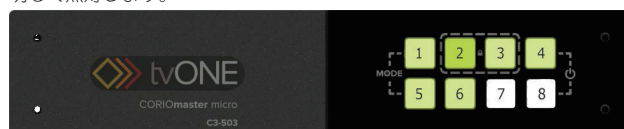


- CORIOmaster micro™ がソース選択モードになっていることを確認します。ボタン1と5を同時に長押しするとモードが切り替わり、ソース選択モードにできます。

- ソースを切り替えたいウィンドウに対応するボタンを点滅するまで長押しします。

注：ウィンドウを選択するとそのウィンドウのソースの音声が聞こえますが、あとで元に戻すことができます。

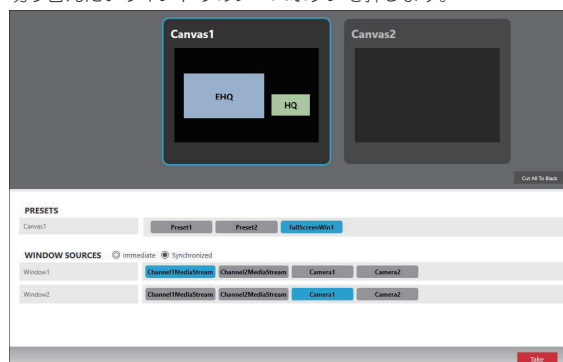
- 切り替えたいソースに対応するボタンを押します。ボタンが点滅したあと、明るく点灯します。



- オーディオソースを以前のソースに戻します。オーディオを設定したいウィンドウのボタンを点滅するまで長押しします。

CORIOgrapher™ のダッシュボードを使用してソースを切り替える

- 切り替えたいウィンドウのソースボタンを押します。



- Take ボタンを押して切替を実行します。

オーディオを再生する

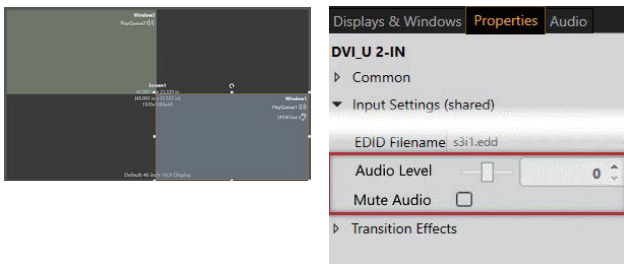
CORIOmaster micro™ は S/PDIF デジタルオーディオを出力します。

RCA ケーブルを使用して、オーディオシステムに接続してください。

! オーディオの設定は、ウィンドウではなくソースに対して設定されます。ウィンドウのプロパティで音量調整やミュートを行なうと、そのソースに関連した全てのウィンドウが影響を受けます。

オーディオについて

- ・ CORIOmaster micro™ は S/PDIF オーディオ出力があり、RCA ケーブルを使用してオーディオシステムに接続することができます。
- ・ アクティブなウィンドウのオーディオが出力されます。アクティブなウィンドウはフロントパネルのボタンでも選択できます。CORIOgrapher™ の Wall Editor で、アクティブウィンドウに アイコンが表示されます。
- ・ CORIOgrapher™ を使って、個々の入力ソースに対して音量とミュートを設定できます。



・ ストリーミングメディア& 4K 再生モジュールは、次のオーディオフォーマットに対応しています。

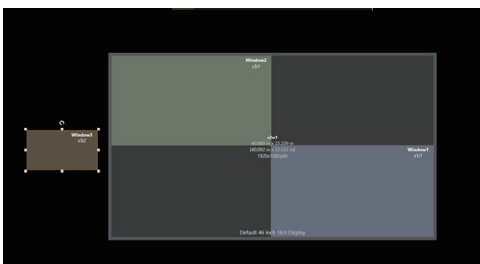
- ・ mp3
- ・ aac

フロントパネルのボタンで、オーディオソースを選択します

CORIOmaster micro™ のボタンで、オーディオ出力するウィンドウを選択できます。

ディスプレイの表示外にあるウィンドウの音声や別のビデオウォール（キャンパス）にあるウィンドウの音声など、任意のウィンドウの音声を出力することができます。

この例では、ウィンドウ3がディスプレイの表示外にありますが、このウィンドウ3のオーディオを出力することができます。また、ウィンドウ3の音声のみを使用する場合は、画質をプレビュー品質まで落とすことでビデオ帯域を節約することができます。



・ 赤く点滅するまで、オーディオ出力したいウィンドウに対応するボタンを長押しします。

CORIOgrapher™ でオーディオ出力を選択します

1. Wall Editor で Audio を選択します。
2. Audio Follows 項目からウィンドウを選択します。



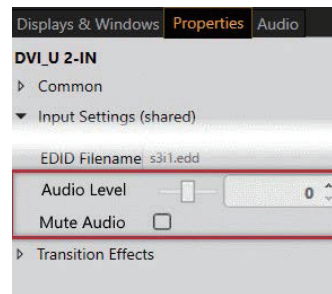
オーディオレベルの調整とミュート

CORIOgrapher™ で各ソース毎にオーディオレベルの調整とミュートが設定できます。

! オーディオの設定は、ウィンドウではなくソースに対して設定されます。ウィンドウのプロパティで音量調整やミュートを行なうと、そのソースに関連した全てのウィンドウが影響を受けます。

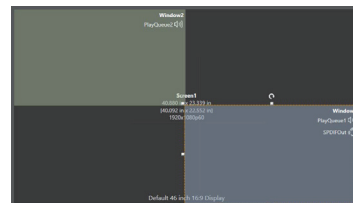
オーディオレベルの調整とミュートの設定手順

1. 音量を調整したいソースを選択したウィンドウをダブルクリックします。
2. 表示されたプロパティでオーディオレベルやミュートを調整します。
 - ・ スライダーを使用してオーディオレベルを調整します。
 - ・ オーディオをミュートする場合は Mute Audio にチェックを入れます。
 - ・ ミュートを解除するには、Mute Audio のチェックを外します。



Wall Editor でオーディオをミュートする手順

Wall Editor のウィンドウ上で、ミュートしたり解除したりできます。



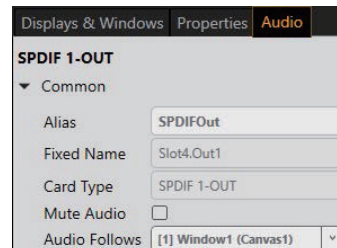
- ・ ミュートする場合は、ウィンドウの アイコンを押します。アイコンが に変わります。
- ・ ミュートを解除する場合は、ウィンドウの アイコンを押します。アイコンが に変わります。

オーディオ出力のミュート

オーディオ出力をミュートすることができます。

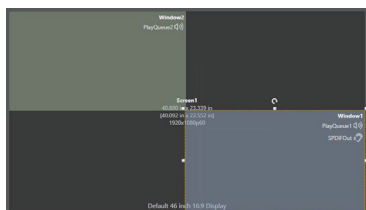
Audio プロパティでミュートする

- ・ Wall Editor で Audio を選択し、Mute Audio にチェックを入れる。



ウィンドウ上でミュートする

Wall Editor で アイコンが表示されているウィンドウがオーディオ出力されています。



- ・ミュートする場合は、ウィンドウの アイコンを押します。アイコンが に変わります。
- ・ミュートを解除する場合は、ウィンドウの アイコンを押します。アイコンが に変わります。

メディアとストリーム

ストリーミングメディア&4K再生モジュールを使用して、USBドライブやIPストリーミングからの映像メディアを再生し、ビデオウォールに表示することができます。

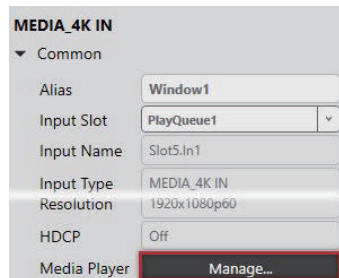
メディアとストリームの再生

ストリーミングメディア&4K再生モジュールは、最大20個のビデオクリップ(メディア)やビデオストリーム(IPストリーム)を再生キューまたはプレイリストに追加することができます。

このモジュール1つで、2系統同時に再生することができます。

メディアとIPストリームはCORIOgrapher™で管理します。

ストリーミングメディア&4K再生モジュールのウィンドウをダブルクリックし、そのプロパティを表示させ、Media Player項目のManageを選択します。



CORIOgrapher™ をオフラインで使用中は、メディアプレイヤーの設定はできません。

ストリーミングメディア&4K再生モジュールは、CORIOmaster micro™ で使用した場合にエンベデッドされたオーディオをサポートします。サポートするオーディオフォーマットは以下の通りです。

- ・ mp3
- ・ aac

始めに

- ・ネットワーク経由でストリーミングするには、ストリーミングメディア&4K再生モジュールをイーサネットに接続します。そしてCORIOgrapher™を使ってネットワーク設定をする必要があります。



キガビットのネットワークを使用してください。

ネットワーク設定については、20ページを参照してください。

- ・ビデオソースをIPストリームするには、Encoder-100のようなエンコーダが必要です。エンコーダはビデオとオーディオ信号を取り込み、AVIP(Audio-Visual over Internet Protocol)信号に変換してネットワーク経由で送信します。例えば、病院の内視鏡や劇場のカメラからの信号をエンコードしてストリーミングすることができます。

Encoder-100については11ページを参照してください。

- ・USBドライブから直接映像メディアを再生したり、USBドライブから内蔵ストレージに映像メディアをコピーする場合は、ストリーミングメディア&4K再生モジュールにUSBドライブを接続します。

4K解像度の映像メディアをUSBドライブから直接再生する場合は、ハイスピードのUSB3.0ドライブを使用してください。

- ・内蔵ストレージにコピーした映像メディアは、直接再生できます。イーサネットやUSBドライブの接続は必要ありません。

ストリーミングメディアの追加と編集

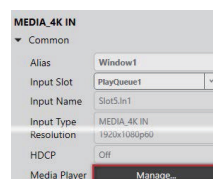
インターネット経由でストリーミングメディアを追加することができます。Encoder-100からのIPストリームも追加できます。

Encoder-100の設定方法は10ページの「Encoder-100について」を参照してください。

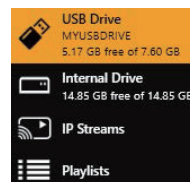
手動でストリームを追加

ストリーミングサービスと接続する場合は

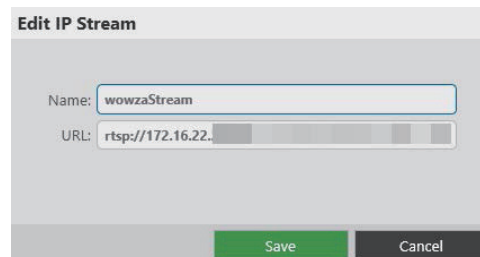
1. CORIOgrapher™でストリーミングメディア&4K再生モジュールのウィンドウをダブルクリックしてプロパティを表示し、Media Player項目のManageを選択します。



2. IP Streamsを選択します。



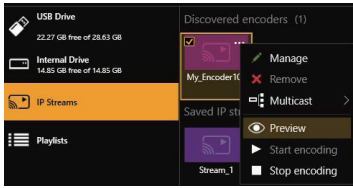
3. Add IP Streamを選択します。
4. ストリーミングサービスの名称とURLを入力し、Add IP Streamを選択します。
5. ストリーミングサービスの詳細を編集したい場合は、編集したいストリーミングサービスを選んでEditを選択します。
6. ストリーミングサービスの名称やURLを編集してSaveします。



Encoder-100 からのストリーミングのプレビュー

Encoder-100 がストリーミングしている場合は、ストリームをプレビューできます。

- Encoder-100 を選択し、Preview を選択します。

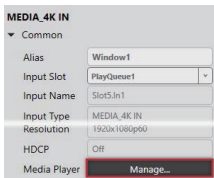


ビデオクリップやストリーミングメディアおよびプレイリストの再生キューへの追加

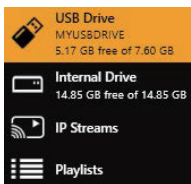
ビデオクリップや静止画、IP ストリームを最大 20 個まで再生キューに追加することができます。ビデオクリップや静止画は USB ドライブや内蔵ストレージから再生し、IP ストリームはネットワーク経由でストリーミングします。

プレイリストを再生キューに追加することもできます。プレイリストを再生キューに追加すると、プレイリストは再生キュー内の全てのコンテンツに置き換えます。

- CORIOgrapher™ でストリーミングメディア & 4K 再生モジュールのウィンドウをダブルクリックしてプロパティを表示し、Media Player 項目の Manage を選択します。



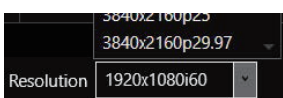
- ビデオクリップなどの映像メディアを選択します。



- そのまま再生キューにドラッグします。



- 再生する出力解像度を選択します。



適切な解像度の選択については、31 ページを参照してください。

プレイリストについての詳細は 21 ページを参照してください。

サポートされているビデオフォーマットについては、36 ページを参照してください。

1 台の Encoder-100 から複数台の CORIOmaster™ でマルチキャストストリーム再生する

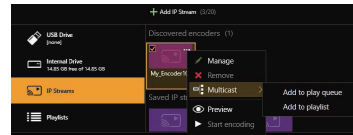
- デフォルトでは、Encoder-100 は 1 つのストリームを 1 台の CORIOmaster™ に供給します。複数台の CORIOmaster™ にマルチキャストストリームすることもできます。

マルチキャストストリームを再生キューまたはプレイリストに追加する

- マルチキャストストリームを再生キューに追加するには、再生キューを停止する必要があります。

- マルチキャストストリームをプレイリストに追加するには、まずプレイリストを選択します。

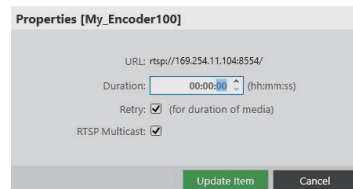
- IP Streams を選択します。
- 追加したい Encoder-100 を選択します。
- メニューの Multicast から Add to play queue または Add to playlist を選択します。



シングルストリームをマルチキャストストリームに変更する

すでに再生キューまたはプレイリストにシングルストリームがある場合、それをマルチキャストストリームに変更することができます。

- エンコーダがプレイリストの中にある場合は、プレイリストを開きます。
- そのエンコーダを選択し、Edit を選択します。
- RTSP Multicast 項目にチェックを入れます。



最良の結果を得るために

大規模なネットワーク上でマルチキャストストリーミングを送信する場合は、IPv4 マルチアドレスリングまたは IGMP v2 をサポートする機器を使用することを推奨します。

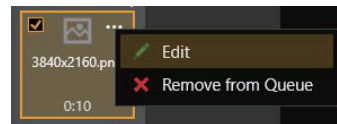
詳細については、ネットワーク管理者にご相談ください。

ストリーミングの再生時間を変更する

デフォルトでは、静止画は 10 秒間再生され、ビデオクリップはクリップの長さ分再生され、IP ストリームはストリームが終わるまで無期限に再生されます。

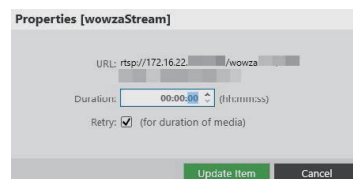
再生キュー内の IP ストリームやビデオクリップ、静止画の再生時間を設定することができます。

- 再生キューで映像メディアを選択します。
- Edit を選択し、映像メディアのプロパティを表示します。



- Duration 項目で、再生時間を変更し Update Item ボタンを押します。

最大再生時間は 23 時間 59 分 59 秒までです。



再生コントロールの使い方

再生キューが実行されているときは、次の操作ができます。

	再生の停止
	一時停止
	次のクリップにスキップ
	前のクリップに戻る
	再生キューからクリップを削除
	再生キューのクリア

再生キューが停止しているときは、次の操作ができます。

	ループ再生の有効 / 無効
	再生キューの実行
	再生キューからクリップを削除
	再生キューのクリア
	再生キューの出力解像度の変更

再生キューの管理

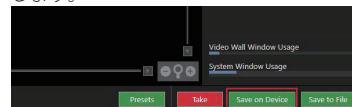
再生キューが実行または停止しているときは、次の操作ができます。

- ・ 最大 20 個までの新しいメディアアイテム（映像コンテンツなど）または IP ストリームを再生キューにドラッグし登録できます。
- ・ 再生キュー内でメディアアイテムをドラッグして、順番を並べ替えることができます。
- ・ 再生キュー内のメディアアイテムの再生時間を変更できます。
- ・ 再生キューからメディアアイテムを削除できます。
- ・ 再生キュー全体をクリアできます。
- ・ CORIOmaster™ の起動時に再生キューを自動実行できます。
- ・ プレイリストを再生キューにドラッグして登録できます。
プレイリストを再生キューにドラッグすると内容が置き換わります。

再生キューを保存する

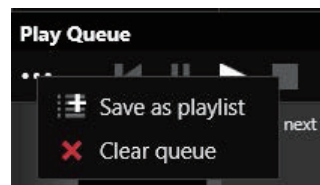
作成した再生キューの内容は、CORIOmaster™ の再起動時に失われてしまうので保存しておく必要があります。

- ・ 再生キューを作成した後、Save on Device ボタンを押して本体内部に保存します。



再生キューをプレイリストとして保存することができます。

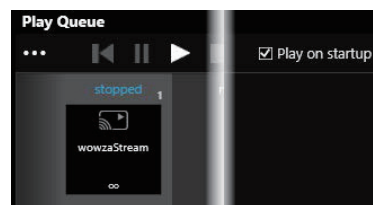
- ・ 再生キューを作成した後、Save as playlist を選択して保存します。



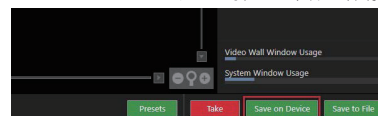
再生キューを自動的に実行する

CORIOmaster™ を起動したときに自動的に再生キューを実行するように設定できます。

- 1、再生キューを作成した後、play on startup にチェックを入れます。



- 2、Save on Device ボタンを押して本体に保存します。



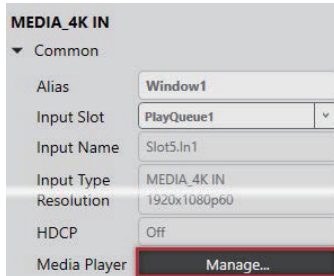
メディアアイテム（映像コンテンツなど）を内蔵ストレージにコピーする

USB ドライブから内蔵ストレージにメディアアイテムをコピーすることができます。詳細は 30 ページの「内蔵ストレージの使用」を参照してください。

■プレイリストの作成と管理

ストリーミングメディア&4K再生モジュールを使用している場合は、メディアアイテムやビデオストリームをプレイリストに登録できます。最大20個のプレイリストを保存することができます。

プレイリストはCORIOographer™で作成し管理します。プレイリストを作成するウィンドウをダブルクリックしプロパティを表示させ、Media Player項目のManageを押します。



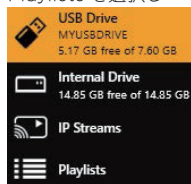
! オフラインではMedia Playerにアクセスできません。

プレイリストについて

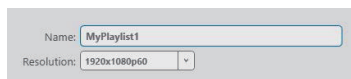
- ・CORIOmaster™には、最大で20個のプレイリストを保存できます。
- ・プレイリストには、静止画やビデオクリップ、IPストリームを最大で20個まで登録できます。
- ・プレイリストは、ストリーミングメディア&4K再生モジュールの2つのチャンネル間では共有できますが、別のストリーミングメディア&4K再生モジュール間では共有できません。
- ・プレイリストには、メディアアイテムの名前とパス（メディアアイテムの保存場所）が記録されます。メディアアイテムの名前や場所を変えるとメディアアイテムを認識できなくなります。
- ・プレイリストを最初から作成することもできますが、再生キューをプレイリストとして保存することもできます。
- ・プレイリストは、CORIOmaster™本体に保存されます。
- ・CORIOmaster™を工場出荷時の状態にファクトリーリセットするとき、プレイリストを保存するか削除するかを選択できます。

新しいプレイリストの作成

1. Playlists を選択し + ボタンを押します。



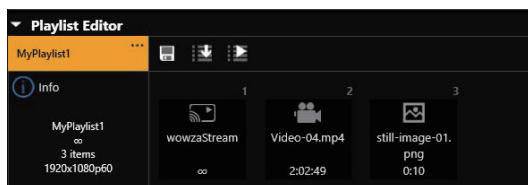
2. プレイリストの名前を付けて、再生する解像度を選択します。



適切な解像度については、31 ページを参照してください。

3. 作成した新しいプレイリストをプレイリストエディタで開きます。

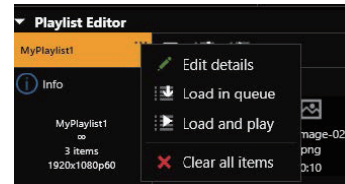
プレイリストエディタが折りたたまれている場合は ▶ アイコンを押してください。



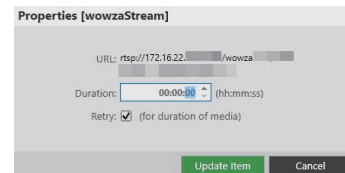
4. メディアブラウザに表示されているメディアアイテム（ビデオクリップやIPストリームなど）をプレイリストエディタにドラッグして、最大20個まで登録できます。

5. プレイリストを編集します。

- ・プレイリスト内の順番を変更する場合は、メディアアイテムをドラッグして移動します。
- ・プレイリストから削除したい場合は、削除するメディアアイテムを選択して Remove from playlist を選択します。
- ・プレイリストから全てのメディアアイテムを削除するには、Clear all items を選択します。



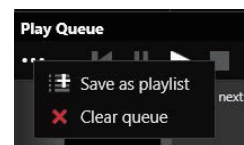
- ・メディアアイテムの再生時間を変更するには、メディアアイテムから Edit を選択してプロパティを表示し、Duration を編集して Update Item ボタンを押します。



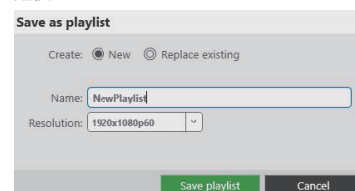
6. プレイリストを保存するには アイコンを押します。

再生キューをプレイリストとして保存

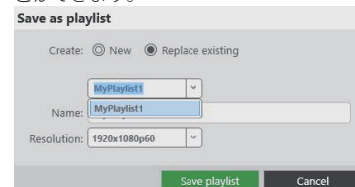
1. 再生キューから Save as playlist を選択します。



2. 新しいプレイリスト（New）が既存のプレイリストを置き換える（Replace existing）かを選択します。
3. 新しいプレイリストを作成する場合は、名前を入力して再生する解像度を選択します。



4. 既存のプレイリストを置き換える場合は、プルダウンリストからプレイリストを選択します。必要に応じて、名前を変更したり解像度を変更することができます。



名前は最大50文字まで使用できます。

適切な解像度については、31 ページを参照してください。

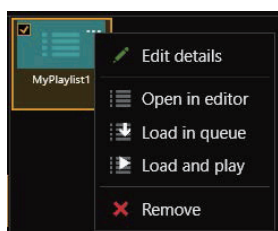
プレイリストの編集と管理

プレイリストを作成したり、編集したり、削除したりできます。
プレイリストを再生キューにロードさせて、再生を実行します。
設定からプレイリストの名前や場所を管理することができます。
プレイリストの設定の詳細は、21 ページを参照してください。

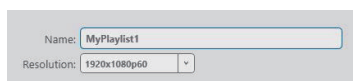
プレイリストの編集

プレイリストの名前と解像度を変更

1. Playlists を選択し編集するプレイリストを選択します。
2. Edit を選択します。

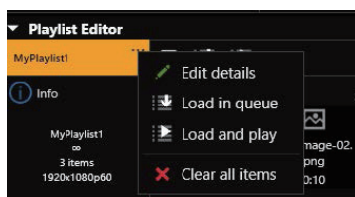


3. 名前や解像度を変更できます。



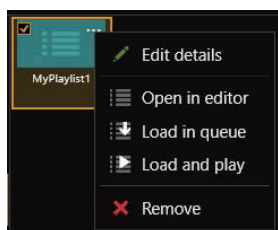
プレイリストの全てのメディアアイテムを消去

- ・ プレイリストエディタから Clear all items を選択します。



編集したいプレイリストを開く

1. プレイリストの中から編集するプレイリストを選択します。
2. Open in editor を選択します。



編集できる内容については、28 ページの「新しいプレイリストの作成」を参照してください。

再生キューにプレイリストを読み込ませる

再生キューは、プレイリストを読み込むとメディアアイテムが全て置き換えられ、再生が停止します。

次の方法があります

- ・ プレイリストを再生キューにドラッグして読み込ませる
- ・ プレイリストを選択して、Load in queue を選択し読み込ませる
- ・ プレイリストエディタで アイコンを選択して読み込ませる

プレイリストを再生する

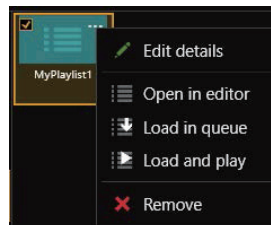
プレイリストを再生キューに読み込ませて再生すると、メディアアイテムが置換えられて再生します。

次の方法があります

- ・ プレイリストを再生キューにドラッグして ボタンを選択します。
- ・ プレイリストを選択して、Load and play を選択します。
- ・ プレイリストエディタで アイコンを選択します。

プレイリストの削除

- ・ プレイリストを選択して、Remove を選択します。



モジュール間でプレイリストを移動する

プレイリストが関連付けされているスロットを、設定 の Playlist 項目で変更することができます。

Number	Name	Module	Resolution	
1	Playlist 1	Slot2	1920x1080p60	
2	Playlist 2	Slot2	1920x1080p60	
3	Playlist 3	Slot2	1280x720p60	

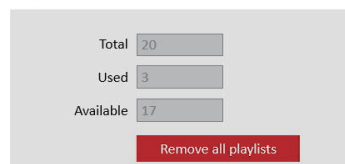
プレイリストの設定については 21 ページを参照してください。

全てのプレイリストを削除する

設定 の Playlist 項目で全てのプレイリストを削除できます。

- ・ Remove all Playlist ボタンを押します。

Playlists



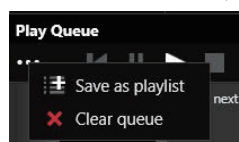
プレイリストの設定については 21 ページを参照してください。

プレイリストを複製する

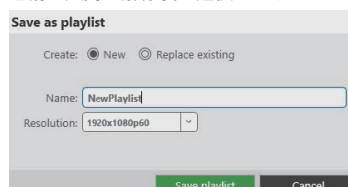
複数のプレイリストに同じメディアアイテムを含めたい場合は、再生キューを作成していくつかの異なる名前で作成します

例えば、すべてのプレイリストに共通のストリームと会社ロゴを入れることができます。

1. メディアアイテムを再生キューにドラッグします。
2. 再生キューから Save as playlist を選択します。



3. 名前を入力し解像度を選択します。



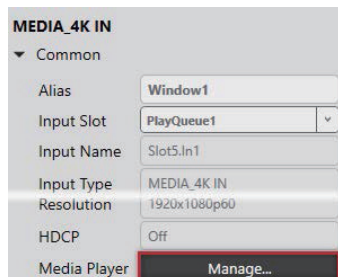
- Save playlist を選択して保存します。
- 手順2～4を繰り返して、別の名前で保存します。
- プレイリストエディタで保存したプレイリストを開き、それぞれに任意のメディアアイテムを追加していきます。

■内蔵ストレージの使用

ストリーミングメディア&4K再生モジュールの内蔵ストレージにメディアアイテムを保存できます。保存したメディアアイテムは、プレイリストや再生キューに追加することができます。

メディアアイテムやIPストリームはCORIOgrapher™で管理します。

ストリーミングメディア&4K再生モジュールのウィンドウをダブルクリックしてプロパティを表示し、Media Player 項目の Manage を選択します。



! オフラインではメディアプレイヤーを使用できません。

CORIOmaster micro™ のみがエンベデッドされたオーディオをサポートします。サポートするオーディオフォーマットは以下の通りです。

・ mp3 ・ aac

内蔵ストレージ内のメディアアイテムを、USB ドライブ内のメディアアイテムに置き換える

✓ USB ドライブから内蔵ストレージに全てのメディアアイテムをコピーする場合に、この方法を選択できます。

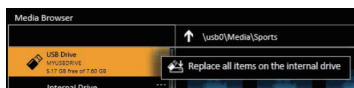
内蔵ストレージの全てのメディアアイテムを USB ドライブの全てのメディアアイテムに置き換えることができます。この場合、内蔵ストレージにあった全てのメディアアイテムが削除されます。

以下の操作をした場合、USB ドライブのフォルダ構造を含めたすべてのデータが内蔵ストレージにコピーされます。

! ストリーミングメディア&4K再生モジュールと互換性のないビデオフォーマットのメディアアイテムは、内蔵ストレージにコピーされませんが表示されません。これらのメディアアイテムも内蔵ストレージのメモリを占有してしまいます。非表示のファイルは手動で削除できませんので、削除するには一度内蔵ストレージからすべてのメディアアイテムを削除します。

互換性のあるファイルフォーマットは、36 ページを参照してください。

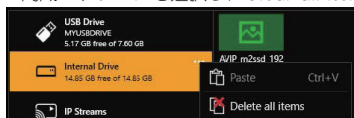
- USB ドライブを選択し、Replace all items on the internal drive を選択します。



内蔵ストレージから全てのメディアアイテムを削除する

表示されていないメディアアイテムを含め、全てのメディアアイテムを内蔵ストレージから削除できます。

- 内蔵ストレージを選択し、Clear all items を選択します。



コピーされる場所

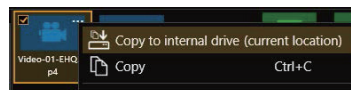
USB ドライブから内蔵ストレージにメディアアイテムをコピーすると、内蔵ドライブに最後にアクセスした場所にコピーされます。

例えば、内蔵ストレージに「Videos」というフォルダを作って、そのフォルダを開いた後に USB ドライブを選択します。メディアアイテムを選択して内蔵ドライブにコピーすると、「Videos」フォルダ内にメディアアイテムがコピーされます。

メディアアイテムやフォルダを内蔵ストレージにコピー

USB ドライブから内蔵ストレージにメディアアイテムやフォルダをコピーすると、内蔵ドライブに最後にアクセスした場所にコピーされます。

- USB ドライブからメディアアイテムまたはフォルダを選択します。
- Copy to internal drive (current location) を選択します。

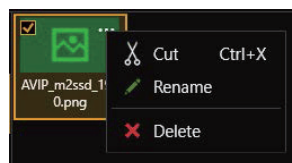


キーボードの Ctrl+C または Ctrl+X および Ctrl+V のコピー（カット）アンドペーストを使用して USB ドライブから内蔵ストレージにコピーすることも可能です。

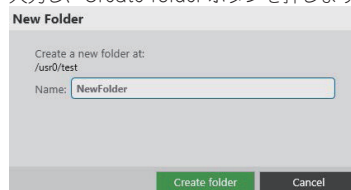
内蔵ストレージ内のメディアアイテムの管理

次の事が可能です。

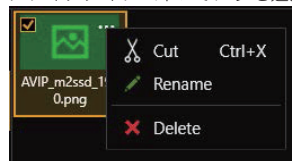
- メディアアイテムやフォルダをコピーまたはカットアンドペーストする
メディアアイテムまたはフォルダを選択し、Copy または Cut を選択します。空スペースを右クリックして Paste を選択します。
- キーボードの Ctrl+C または Ctrl+X および Ctrl+V を使用してメディアアイテムやフォルダをコピーまたはカットアンドペーストします。
- メディアアイテムやフォルダを削除
メディアアイテムやフォルダを選択して、Delete を選択します。



- 新しいフォルダを作成
空スペースを右クリックして「New folder」を選択します。フォルダ名を入力し、Create folder ボタンを押します。



- メディアアイテムやフォルダの名前を変更
メディアアイテムやフォルダを選択し、Rename を選択します。



内蔵ストレージのメディアアイテムを再生する

メディアアイテムを再生キューまたはプレイリストにドラッグして再生ボタンを押します。

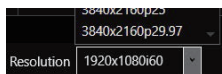
メディアアイテムとストリームの再生については、25 ページを参照してください。

プレイリストについては、28 ページを参照してください。

プレイリストまたは再生キューに最適な解像度を選択

最適な解像度はメディアアイテムのフレームレートやピクセルサイズによって異なります。

再生キューやプレイリスト内の全てのメディアアイテムは、この解像度の設定によって自動的にスケーリングされます。選択した解像度では望み結果が得られない場合は、いつでも解像度を変更できます。



ストリーミングメディア& 4K 再生モジュールは、2チャンネルの同時再生をサポートします。2つのチャンネルは異なる解像度に設定できますが、チャンネル2は1920x1080p60のみをサポートします。

解像度表示について

解像度は次の形式で表示されます。

水平ピクセル数 X 垂直ピクセル数 p あるいは i、フレームレート (Hz または fps)

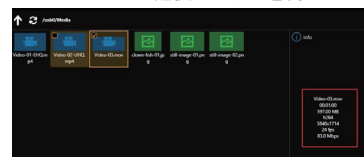
p はプログレッシブスキャンで、i はインターレーススキャンです。

例えば、1920 x 1080i60 は、水平 1920 ピクセル、垂直 1080 ピクセル、インターレース、60Hz です。

メディアアイテムの解像度を知る方法

メディアストリームの解像度を知るには、ストリームのソースを参照してください。

ビデオクリップの解像度を確認するには、メディアブラウザで確認したいビデオクリップを選択します。右側の info に情報が表示されます。



フレームレート

同じフレームレートのビデオクリップや IP ストリームを使用することを勧めます。そして、それらのメディアアイテムと同じフレームレートの解像度にプレイリストや再生キューを設定してください。

	Video clip 1	Video clip 2	Video clip 3
✓	1920x1080p60	3840x2160p60	1600x1200p60

もしフレームレートが混在している場合は、因子となるフレームレートを使用してください。例えば、30Hz と 60Hz のメディアアイテムを再生キューに追加した場合は、フレームレートが 60Hz の解像度を選択することができます。因子となるフレームレートは割ることができます。

注：フレームレートは切り上げないでください。例えば、23.98Hz を 24Hz として扱わないでください。

	Video clip 1	Video clip 2	Video clip 3	Best frame rate	Reason
✓	1920x1080p60	3840x2160p30	1600x1200p60	60	60 は両フレームレートの因子です。 60/60 = 1 60/30 = 2
✓	3840x2160p25	1920x1080p50	1280x720p50	50	50 は両フレームレートの因子です。 50/50 = 1 50/25 = 2
✗	1280x720p23.98	1280x720p24	1920x1080p60	-	この再生キューは動作しません。60 を 24 で割ることができませんし、23.98 と 24 は同じフレームレートとして扱うことができません。

解像度

- 再生キューの解像度は、登録されているメディアアイテムの解像度以下に設定してください。高い解像度を設定してアップスケーリングを使うと不要な帯域幅を消費します。
- 逆に低すぎる解像度を設定すると、ビデオウォールに表示される画像品質が低下します。
- 幅広い解像度のメディアアイテムが再生キューに含まれる場合は、中間の解像度を選択することをお勧めします。この場合、高解像度のメディアアイテムがダウンスケールされ、低い解像度のメディアアイテムがアップコンバートされることになります。
- ビデオウォールへの表示レイアウトをイメージして、適切な解像度を設定してください。

スキャン方式

- 再生キューの中に、プログレッシブスキャンとインターレーススキャンのメディアアイテムを混在させないでください。

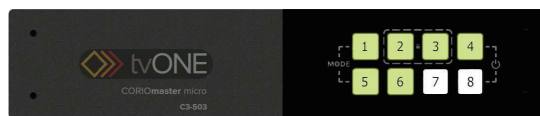
CORIOmaster micro™ のボタンについて

フロントパネルのボタンを使用して、プリセット選択やソース選択、ボタンのロックをすることができます。

モード切替

プリセット選択モードとソース選択モードを切り替えるには 1 と 5 のボタンを同時に長押しします。

モードが変わるとボタンの色が変わります。プリセット選択モードはボタンがオレンジ色に、ソース選択モードは緑色になります。



CORIOmaster micro™ のロック

フロントパネルのボタンで CORIOmaster micro™ をロックする

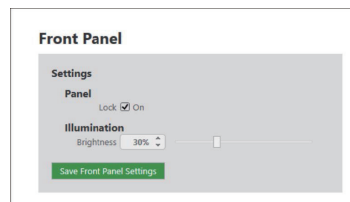
2 と 3 のボタンを長押しすると、ロックしたり解除したりできます。

CORIOmaster micro™ がロックされると、2 と 3 のボタンが赤色に点灯します。



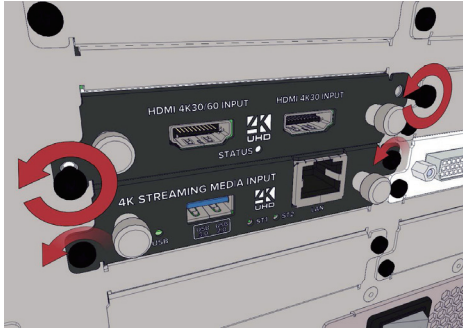
CORIOgrapher™ で CORIOmaster micro™ をロックする

- ⚙️ を選択し、Front Panel を選択します。
- Lock にチェックを入れて、Save Front Panel Settings ボタンを押します。



モジュールの交換

CORIOmaster™ からのモジュールの取り外し

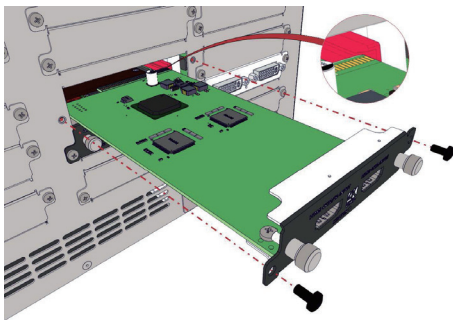


- 1、交換するモジュールのネジを外します。
- 2、交換するモジュールに隣接した上または下のモジュールのネジを緩めます。



- 3、ハンドルをつかんでモジュールを引き出します。

モジュールの取り付け



- 1、CORIOmaster™ のガイドレールにモジュールを挿入します。
- 2、モジュールを奥にあるコネクタにしっかりと押し込みます。
- 3、モジュールを固定するネジを締めます。
- 4、緩めた隣接のモジュールのネジを締めます。

■トラブルシューティング

この章では、よく寄せられる質問とトラブルシューティングに関するアドバイスを記載しています。必要なトラブルシューティングが見つからない場合は、販売店にお問い合わせください。

CORIOmaster™ のファームウェア更新について

ファームウェアのバージョンを確認するには、本体と PC をネットワーク接続してログインする必要があります。

CORIOgrapher™ ソフトウェアの設定ウインドウで CORIOmaster™ のファームウェアを確認します。ファームウェアの更新は CORIODiscover™ ソフトウェアで行ないます。



ファームウェアを更新すると、保存されていない設定は削除されます。更新する前に、本体に保存するかバックアップファイルに PC に保存してください。

バックアップファイルの保存に関しては 18 ページを参照してください。

始める前に


最新の CORIOmaster™ ファームウェアをインストールする場合は、CORIODiscover™ V1.4 以上が必要です。このソフトウェアは tvONE の WEB ページ (tvone.com) から入手することができます。

詳細は、販売店にお問い合わせください。

ファームウェアのバージョン確認と最新ファームウェアの入手

CORIODiscover™ ソフトウェアのバージョンは、CORIOmaster™ のファームウェアのバージョンと関連があります。

古いバージョンのソフトウェアでは最新のファームウェアをインストールできません。最新の CORIODiscover™ ソフトウェアを入手してください。

- 1、CORIOgrapher™ の  を選択し、現在のファームウェアのバージョンを確認します。
- 2、tvone.com/firmware-updates で最新のファームウェアを確認します。

バージョンを比較して最新のファームウェアがある場合は、そのファームウェアのリリースノートで更新内容を確認し、更新を行なうのか否かを判断します。

詳細は、販売店にお問い合わせください。

- ・ CORIOmaster™ のファームウェアは機種ごとに分かれています。

CORIOmaster™ C3-540

CORIOmaster mini™ C3-510

CORIOmaster micro™ C3-503

ご使用の機種のものを選択してください。

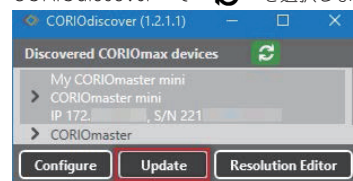
- 3、更新を行なう場合は、該当する機種のファームウェアを tvone の WEB サイトからダウンロードします。

詳細は、販売店にお問い合わせください。

ファームウェアファイルは圧縮されていますが、解凍する必要はありません。

ファームウェアの更新手順

- 1、CORIODiscover™ で  を選択します。

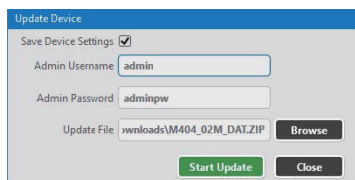


- 2、検出されたリストの中から更新する CORIOmaster™ を選択します。

- 3、Save Device Settings にチェックを入れます。

本体のビデオウォール設定を含むすべての設定を保持します。

4. 管理者ログインのユーザー名とパスワードを入力します。



5. Browse ボタンを押して、ダウンロードしたファームウェアを選択します。

6. Start Update ボタンを押して、更新を開始します。

更新が終了すると、CORIOmaster™ に再度ログインできます。

ネットワークで接続している CORIOmaster™ が検出されない

問題は？

CORIOgrapher™ を起動したホーム画面で、接続している CORIOmaster™ が検出されない。また、Refresh ボタンを押しても検出されない場合。

原因は？

IP アドレスが他の機器と重なっているなどのネットワークの設定が問題である可能性がある

ファイアウォールなどセキュリティの高い環境に接続されている可能性がある

解決方法

本体の IP アドレスがわかっている場合は、Connect to your device から IP アドレスを入力してログインしてください。

接続する PC は CORIOmaster™ と同一のセグメントになるように IP アドレスを設定する必要があります。

IP アドレスがわからない場合は、一度 RS-232 経由で本体と接続して本体の IP アドレスを確認してください。

! イーサネットと RS-232 を同時に接続することはできません。シリアル接続が終了したらログアウトしてください。

✓ API コマンドは、アルファベットの大きい文字と小さい文字を区別しません。

CORIOmaster™ の IP アドレスを調べるには

1. CORIOmaster™ の RS-232 ポートに PC を接続します。
2. ハイパーターミナルなどのターミナルソフトウェアで接続します。
3. COM ポートの設定は次のようにします。

Speed (baud)	115200
Data bits	8
Stop bits	1
Parity	None
Flow control	None

4. 管理者権限でログインするには、ユーザー名「admin」パスワード「adminpw」と入力します。

これはデフォルトのログイン情報ですが、変更している場合は管理者にログイン情報を確認してください。

5. DHCP が有効になっていることを確認するには、System.Comms.Ethernet.DHCP と入力して Return キーを押します。

もし有効になっている場合は、手順 6 に進みます。

もし無効になっている場合は、手順 7 に進みます。

6. IP_Address プロパティから CORIOmaster™ の IP アドレスを見つけて、それをメモします。手順 9へ進みます。

7. System.Comms.Ethernet と入力して Return キーを押します。

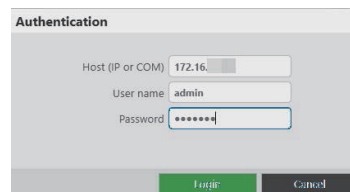
8. IP_Address プロパティから CORIOmaster™ の IP アドレスを見つけて、それをメモします。

9. ログアウトします。

CORIOmaster™ にログイン

CORIOgrapher™ の Home 画面で CORIOmaster™ にログインします。

1. Connect to your device を選択します。
2. シリアル接続で取得した IP アドレスとログインユーザー名とパスワードを入力します。



うまくいかない場合は、

ネットワークまたはファイアウォールに問題がある可能性があります。ネットワーク管理者にご相談ください。

また、CORIOmaster™ に特定の IP アドレスを設定する必要があるかもしれません。

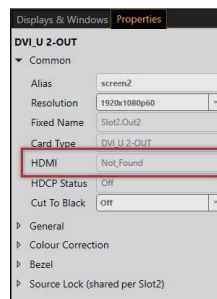
CORIOmaster™ の IP アドレスの変更については、20 ページを参照してください。

もし、どうしてもうまくいかない場合は、販売店にお問い合わせください。

ソース画像の表示が不安定なとき

問題は？

ディスプレイが画像を表示したり、しなかったりを繰り返しています。CORIOgrapher™ のディスプレイのプロパティの HDMI 項目も Found と Not_Found を繰り返しています。



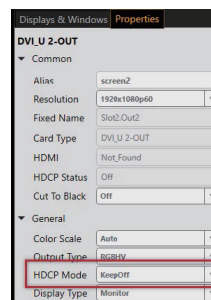
原因は？

HDCP (High Definition Copy Protection) をサポートしていないディスプレイの可能性がある。

解決方法

以下を試してください。

1. CORIOgrapher™ の Wall Editor で、ビデオウォール上のディスプレイをダブルクリックしプロパティを表示します。
2. General の HDCP Mode 項目を KeepOff に設定します。



うまくいかない場合は、

もし HDCP Mode を KeepOff に設定しても動作しない場合は、FollowSources に設定してみてください。

もし、どうしてもうまくいかない場合は、販売店にお問い合わせください。

ストリーミングメディア&4K再生モジュールがオーバーヒートする

問題は？

ストリーミングメディア&4K再生モジュールが過熱するとエラーメッセージが表示されます。このとき、モジュールの性能が低下します。

原因は？

CORIOmaster™ を設置している環境の周辺温度が暖かすぎたり、内部の冷却ファンが正常に動作しなくなった場合に、モジュールがオーバーヒートする場合があります。モジュールが熱くなりすぎると、処理スピードが落ちるなどの性能低下が起こります。

解決方法

以下を試してください。

- 1、CORIOmaster™ の電源を切ってください。
- 2、少なくとも 20 分間は冷却します。
- 3、電源を再投入します。

続けて以下の操作を行います。

- 1、本体の冷却ファンの吹き出し口付近に手を置き、空気が流出していることを確認します。
- 2、CORIOmaster™ の周囲温度を確認します。
 - ・冷却ファンの吹き出し口を妨げるものはありますか？
 - ・または、密集していませんか？
 - ・CORIOmaster™ が最大限の性能を発揮するには、周囲温度を 20℃以下に保つことが理想的です。
- 3、本体の周辺環境に問題がある場合は、問題が解決するまで電源を切ってください。

うまくいかない場合は、

ストリーミングメディア&4K再生モジュールは、高解像度で高ビットレートのメディアアイテムを再生しますが、画像の品質を損なわない程度に解像度やビットレートを下げてみてください。

もし、どうしてもうまくいかない場合は、販売店にお問い合わせください。

オーディオが聞こえないとき

問題は？

CORIOmaster micro™ を使用していて、オーディオが聞こえない。

原因は？

- ・ 間違ったウィンドウにオーディオを設定しているかもしれません。
- ・ ソースまたは出力でミュートされているか、オーディオレベルが低くなっているかもしれません。
- ・ メディアアイテムのオーディオがサポートされていないフォーマットかもしれません。
- ・ 本体のオーディオ出力端子以降のオーディオ機器の接続や設定が間違っているかもしれません。

解決方法

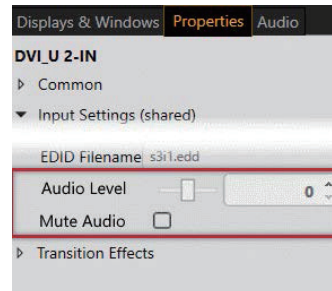
以下を試してください。

アクティブなウィンドウを確認する

- ・ CORIOmaster micro™ のフロントパネルで、聞きたいウィンドウに対応するボタンを赤色に点滅するまで長押しします。

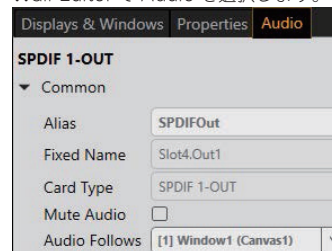
ソースがミュートされていないか、オーディオ入力レベルが低くなっていないかを確認

- 1、CORIOgrapher™ で Wall Editor を選択します。
- 2、聞きたい音源を再生しているウィンドウをダブルクリックしてプロパティを表示します。
- 3、Input Setting の Audio Level 項目のスライダー位置を確認します。
- 4、同じく Mute Audio 項目のチェックがされていないことを確認します。




オーディオ出力がミュートされていないかを確認

- 1、Wall Editor で Audio を選択します。



- 2、Common の Mute Audio 項目がチェックされていないことを確認します。

フロントパネルのボタンが正しいウィンドウに関連しているかを確認

- 1、CORIOgrapher™ の  から Front Panel の Button Mapping を選択します。
- 2、Window を選択して、押したボタンに対応したウィンドウの番号を確認します。
- 3、もしボタンに割り当てられたウィンドウ番号が正しくない場合には、正しいウィンドウ番号に変更します。

メディアアイテムのオーディオフォーマットを確認

- ・ ストリーミングメディア&4K再生モジュールからオーディオを再生する場合は、再生するメディアアイテムのオーディオフォーマットを確認してください。

ストリーミングメディア&4K再生モジュールは、mp3 と aac 形式のみをサポートします。

- ・ サポートされていないフォーマットの場合は、フォーマット変換してください。

うまくいかない場合は、

- 1、CORIOmaster micro™ を再起動します。
- 2、すべてのハードウェア接続を確認します。
- 3、別のソース機器を接続して、オーディオ機器が動作していることを確認します。
- 4、CORIOmaster micro™ が、最新のファームウェアであることを確認します。また、CORIOgrapher™ も最新版を使用します。

tvone.com から最新のファームウェアや最新版の CORIOgrapher™ ソフトウェアを入手できます。

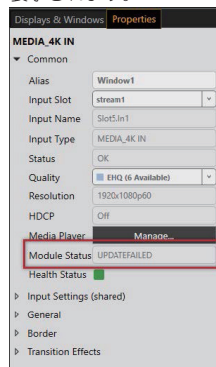
ファームウェアの更新については、32 ページを参照してください。

もし、どうしてもうまくいかない場合は、販売店にお問い合わせください。

ストリーミングメディア&4K再生モジュールのファームウェアを更新できないとき

問題は？

1. CORIOdiscover™ に、ストリーミングメディア&4K再生モジュールのファームウェア更新が失敗したエラー表示があります。
2. CORIOgrapher™ にも同様に UPDATEFAILED というエラーメッセージが表示されます。



原因は？


CORIOmaster™ のファームウェアを更新中にエラーが発生してしまった。

ダウンロードしたファームウェアのファイルが破損している可能性があります。

ストリーミングメディア&4K再生モジュールに問題がある可能性があります。

解決方法

以下を試してください。

1. CORIOmaster™ を再起動します。
2. CORIOgrapher™ の  を選択して、Module Configuration を選択します。
3. ストリーミングメディア&4K再生モジュールの設定を選択して、ステータスを確認します。

続けて以下の操作を行います。

1. 最新ファームウェアのファイルをもう一度ダウンロードします。

CORIOmaster、mini、micro の機種を確認して、正しいバージョンをダウンロードしてください。

2. ファームウェアの更新を実行します。

ファームウェアの更新については、32 ページを参照してください。

うまくいかない場合は、

もし、どうしてもうまくいかない場合は、販売店にお問い合わせください。

CORIOgrapher™ から Encoder-100 が接続できないとき

問題は？

1. Media Browser の IP ストリームで Encoder-100 を検索しようとしたがリストに表示されません。また、手動で IP アドレスを追加しようとしたができません。
2. Encoder-100 がリストに表示されていますが、それに接続したりストリーミングを実行することができません。

原因は？

- ・ Encoder-100 が、CORIOgrapher™ を実行している PC と同じネットワークにない可能性があります。
- ・ IP アドレスの設定が間違っているか、別々の物理ネットワーク上に接続されている可能性があります。

Encoder-100 が UPnP (Universal Plug and Play) や API コマンドを通過させないルータの外にある可能性があります。

解決方法

以下を試してください。

1. Encoder-100 を工場出荷時のデフォルト設定に戻します。
工場出荷時の復元については、14 ページを参照してください。
2. ネットワーク上の機器をすべて DHCP を使用して IP アドレスを設定するように変更します。
3. CORIOgrapher™ を実行している PC と Encoder-100 が同じ物理ネットワーク上にあることを確認します。

もし、CORIOgrapher™ を実行している PC と Encoder-100 を意図的に異なる物理ネットワーク上に接続している場合は、次の手順を実行します。

1. CORIOgrapher™ を実行している PC と Encoder-100 を一時的に同じネットワーク上に接続して、Encoder-100 を設定します。
この時、Encoder-100 をスタティック IP アドレスで設定します。
Encoder-100 の設定に関しては、12 ページを参照してください。
2. IP ストリーム (Encoder-100) の IP アドレスをメモします。
3. CORIOgrapher™ を実行している PC と Encoder-100 を元のネットワークに戻します。
4. 手順 2 でメモした IP アドレスを持つ IP ストリームを手動で追加します。
手動で IP ストリームを追加する方法については、25 ページを参照してください。

うまくいかない場合は、

ネットワーク設定が正しいことを確認してください。

ネットワークの設定の詳細は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

もし、どうしてもうまくいかない場合は、販売店にお問い合わせください。

トラブルシューティングのチェックリスト

上記のトラブルシューティングで解決しない場合や製品が機能しなくなった場合は、以下の項目を確認してください。

1. このマニュアルを熟読して、製品が正しくセットアップされていることを確認してください。
2. ケーブルと各機器が全て確実に接続されていることを確認してください。特にコネクタ部の接触不良やケーブルの品質不良に注意してください。
3. 給電されているコンセントに接続して、本体に電源が供給されていることを確認してください。本体のフロントパネルの LED が点灯していますか？
4. 各ソース機器を直接ディスプレイに接続して、ソース信号を確認してください。
5. 同様に各ディスプレイをソース機器に直接接続して、ディスプレイを確認してください。
6. 接続する各ケーブルをテストしてください。
7. 製品を工場出荷時の設定に戻してテストしてください。
注：工場出荷時の設定に戻すと、ユーザー設定がクリアされます。
8. 製品のファームウェアを最新版に更新してください。
注：ファームウェアの更新により、ユーザー設定がクリアされます。
正常に動作しない場合は、販売店にお問い合わせください。

CORIOmaster™ のログインパスワードは？

デフォルトのユーザー名とパスワードは、admin と adminpw です。

出力モジュールで HDMI エクステンダーに電源を供給できますか？

DVI-I 出力モジュールからは最大で 100mA を外部エクステンダーなどに供給することができます。100mA を超える容量が必要なエクステンダーは AC アダプタで電源供給してください。

ストリーミングメディア& 4K 再生モジュールの内蔵ストレージのメモリー容量は？

16GB モデルと 128GB モデルの 2 つがあります。

ストリーミングメディア& 4K 再生モジュールの MAC アドレスを調べるには？

CORIOgrapher™ で  から Module Configuration を選択して、調べるモジュールの Configure をクリックします。

再生キューに追加できるフォーマットは？

メディアストリームとビデオクリップおよび静止画を再生キューに追加できます。サポートされているフォーマットは、

.mp4 .mov .mkv .m4v .ts .mts
.m2ts .mt2
JPEG PNG BMP

再生キューを保存することはできますか？

再生キューを作成した後、ウォールエディタの Save on Device ボタンを押すと、再生キューを含むすべての設定が本体内部に保存され、再起動してもそのまま残っています。

再生キューを含むすべての設定を PC にバックアップすることができます。バックアップファイルは、いつでも CORIOmaster™ 本体に復元することができますが、バックアップファイルの作成を行なった以降に変更した設定は失われます。

CORIOgrapher™ の V2.4 以降は、再生キューをプレイリストとして保存することができます。

■ C3-540/C3-510/C3-503 仕様

▼コンピューター入力	
デジタルDVI(DVI-U端子) ※ HDMI は HDCP 対応	C3-540: 最大 28 C3-510: 最大 10 C3-503: 最大 4
アナログ(DVI-U端子)	C3-503: 最大 4
アナログフォーマット	RGBHV, RGBS, RGsB, YPbPr
アナログ同期	TTL レベル, 10K Ω, 正または負
RGB レベル	0.5-2.0 Vp-p
スキャンレート検出	自動
アナログ信号	PC: 1920 × 1080, HD: 1080p60
DVI 信号	PC: 1920 × 1200, HD: 1080p60
最大水平スキャン レート	150kHz コンピューター出力
▼コンピューター出力	
DVI (DVI 端子) ※ HDMI は HDCP 対応	C3-540: 最大 28 C3-510: 最大 10 C3-503: 最大 4
アナログ (DVI 端子)	C3-503: 最大 4
アナログフォーマット	RGBHV, RGBS, RGsB, YPbPr
RGB レベル	0.7 Vp-p
DVI 信号	PC: 1920 × 1200, HD: 1080p60
アナログ信号	PC: 1920 × 1080, HD: 1080p60
垂直リフレッシュレート	最大 250Hz
サイズとポジション	調整可能
内部メモリー	不揮発性
変換技術	特許取得 - CORIO®3
カラーサンプリング	RGB 24bit 4:4:4, YPbPr 20bit 4:2:2
最大サンプリングレート	162MHz
ファームウェア	アップデートダウンロード可能
映像コムフィルター	適応型
映像調整	コントラスト、ブライトネス、RGB ガンマ
▼HD 映像解像度 (DVI, YPbPr, SDI、HDBaseT)	
720p (1280 × 720)	23.98、24、25、29.97、30、50、59.94、60Hz
1035i (1920 × 1035)	59.94、60Hz
1080i (1920 × 1080)	50、59.94、60Hz
1080p (1920 × 1080)	23.98、24、25、29.97、30、50、59.94、60Hz
▼4K 映像入力解像度 (HDMI、HDBaseT 経由)	
3840 × 2160 (4:4:4)	23.98/24/25/29.97/30Hz 8ビット
3840 × 2160 (4:2:0)	50/59.94/60Hz 8ビット
4096 × 2160 (4:2:0)	50/59.94/60Hz 8ビット
▼4K 映像出力解像度 (HDMI 経由)	
3840x2160 (4:4:4)	23.98/24/25/29.97/30Hz 8ビット
▼ビデオ入力	
信号規格	NTSC, PAL
コンポジットビデオ信号	C3-540: DVI-U × 最大 28 C3-510: DVI-U × 最大 10 C3-503: DVI-U × 最大 4
YC (S-Video)	
YUV /YPbPr	
SD-SDI/HD-SDI	C3-540: BNC × 最大 56 C3-510: BNC × 最大 16 C3-503: BNC × 最大 8
SD-SDI/HD-SDI/3G-SDI	C3-540: BNC × 最大 28 C3-510: BNC × 最大 8 C3-503: BNC × 最大 4
HDBaseT	C3-540: RJ45 × 最大 28 C3-510: RJ45 × 最大 10 C3-503: RJ45 × 最大 4
4K/30 ※ HDMI/HDBaseT 経由	C3-540: HDMI × 最大 28 C3-510: HDMI × 最大 8 C3-503: HDMI × 最大 4
4K/60 ※ HDMI/HDBaseT 経由	C3-540: HDMI × 最大 14 C3-510: HDMI × 最大 4 C3-503: HDMI × 最大 2

▼AV Over IP	
対応モジュール数	C3-540: 最大 4 C3-510: 最大 2 C3-503: 最大 2
1 GbE イーサネットポート	C3-503: 最大 2
IP ビデオ・デコーディング	H.264(CVP,Main,High)、H.265/HEVC1 (Main)
IP Bit Rates up to 25Mbps per stream	C3-540: 最大 8ストリーム C3-510/C3-503: 最大 4ストリーム
Color Depth	4:2:0、4:2:2
対応解像度	1920 × 1080p60 まで構築可能
ユニキャストストリーム	RTSP、RTMP、HTTP、MPEG-TS
マルチキャストストリーム	RTSP、MPEG-TS
▼メディア / 画像	
インターフェース	USB3.0、内蔵メモリー、ネットワーク
ビデオ・コーデック	H.264(CBP, Main, High)、H.265/HEVC1 (Main)
ビデオ・フォーマット	mp4、.mov、.mkv、m4v、.ts、.mts、.m2ts、.mt2
再生ビットレート	シングルストリーム: 100Mbps (per module) デュアルストリーム: 40Mbps (per module)
▼ファイル再生解像度	
最大 3480 × 2160@30fps	C3-540: 最大 4 C3-510: 最大 2 C3-503: 最大 2
最大 1080p@60fps	C3-503: 最大 2
最大 7680 × 4320	静止画
▼メディア処理	
外部 USB 3.0 インターフェース	C3-540: 最大 4 C3-510: 最大 2 C3-503: 最大 2
対応機器	フラッシュファイルシステム FATk FAT32, ext3, ext4, NTFS
内部	最大 128GB まで高速保存 (per module)
外部	ファイル転送対応
▼ビデオ出力	
YUV /YPbPr	C3-540:DVI × 最大 28 C3-510:DVI × 最大 10 C3-503:DVI × 最大 4
SD-SDI/HD-SDI/3G-SDI	BNC × 最大 10
HDBaseT	RJ-45 × 最大 10
4K	C3-540:HDMI × 最大 14 C3-510:HDMI × 最大 5 C3-503:HDMI × 最大 2
▼3G/HD/SD-SDI	
SMPTTE259M-C (SD-SDI ビデオ)	270Mbps、ジッター 0.1UI 以下、 525/625 ライン
SMPTTE292M (HD-SDI ビデオ)	1.485/1.4835Gbps、ジッター 0.2 UI 以下、720p、 1035i、1080i、1080p
SMPTTE424M (3G-SDI ビデオ)	2.97/2.967Gbps、ジッター 0.3 UI 以下、1080p 60/59.94
▼静止画対応	
最大 7680 × 4320	Rendered to 4K
ファイル形式	JPEG, PNG, BMP
▼コントロール・寸法・質量・電源	
RS-232	RS-232、IP インターフェース
▼寸法・質量・電源	
◎ CORIOmaster[C3-540] AC100V、50/60Hz、最大 300W H178 × W482 × D334mm ※突起部除く、約 15kg	
◎ CORIOmaster mini[C3-510] AC100V、50/60Hz、最大 125W H44 × W432 × D334mm ※突起部除く、約 5kg	
◎ CORIOmaster micro[C3-503] AC100V、50/60Hz、最大 60W H44 × W219 × D250mm ※突起部除く、約 1.4kg	
▼梱包内容	
本体 × 1、USB ケーブル (A-B、1.8m) × 1、D-Sub9 ピンケーブル (RS-232、1.8m) × 1、DVI-U (オス)-BNC (メス) 変換アダプター × 1、DVI-VGA 変換アダプター × 1、DVI (オス)-HDMI (メス) 変換アダプター × 1、USB メモリー × 1、ラックマウント金具一式 (※ C3-510 のみ)、電源ケーブル × 1	

MEMO



- 商品写真やイラストは、実際の商品と一部異なる場合があります。
- 掲載内容は発行時のもので、予告なく変更されることがあります。変更により発生したいかなる損害に対しても、弊社は責任を負いかねます。
- 記載されている商品名、会社名等は各社の登録商標、または商標です。

HIBINO**ヒビノインターサウンド株式会社**

〒108-0075 東京都港区港南3-5-12 TEL: 03-5783-3880 FAX: 03-5783-3881

E-mail: info@hibino-intersound.co.jp <http://www.hibino-intersound.co.jp/>